

福祉用具に関するニーズ調査報告書

平成18年3月

財団法人岡山県産業振興財団

目 次

1. 調査概要	
(1) 調査目的	1
(2) 調査の方法	1
(3) アンケートの送り先と回収状況	1
① アンケート送付先	1
② アンケート回収状況	1
(4) 質問内容	2
(5) 調査の企画・実施並びに報告書作成委託先	2
2. 支援者の意見	3
(1) 回答者のプロフィール	3
① 支援者の性別	3
② 勤続年数	3
③ 職場	3
④ 職種	4
(2) 回答者の利用している福祉用具	5
① 健康用品	5
② 入浴関係用品	5
③ 特殊寝台	6
④ 衣料品	7
⑤ トイレ用品	7
⑥ 歩行補助器具	7
⑦ 住宅関連	8
(3) 回答者の利用している福祉用具の利用頻度	8
① 総合利用頻度	9
(4) 回答者の福祉用具に対する意見	10
① 利用頻度の高い用具	10
② 職場別にみる困った点	13
③ 職種別にみる困った点	15
④ 勤務年数にみる困った点	17
(5) 職場・職業・勤続年数別にみる困った福祉器具のまとめ	19
① 3つの視点から分析を試みた理由	19
② 3つの視点からみた福祉用具の困った点の有無	19
③ 3つの視点からみた困った福祉用具の種類	19
④ 困った点の有無と困った福祉用具の種類	19

⑤ 3つの視点からの困った福祉用具	19
⑥ 福祉用具の困った点からの開発の方向性	19
(6) 福祉用具の改善点（こうしたら、こうだったと思う点）	20
① 職場別	20
② 職種別	23
③ 勤務年数	25
(7) 職場・職業・勤続年数別にみるこうしたら、こうだったと思う点	26
① 3つの視点から分析を試みた理由	26
② デザイン	26
③ サイズ	26
④ 重さ・軽さ	27
⑤ 種類	27
⑥ 大きい・小さい	27
⑦ 利用負担	27
⑧ 支援者の要望からみた、今後の開発の方向性	27
3. 本人・家族の意見	28
(1) 回答者のプロフィール	28
① 福祉用具利用者の年齢	28
② 福祉用具利用者の性別	28
③ 介護保険の認定の有無	29
(2) 利用しているサービス等	29
① 利用している福祉サービス	29
② 福祉用具を利用している場面	31
(3) 福祉用具に対する問題点等	32
① 福祉用具に対する問題点や困った点の有無	32
② 問題点困った点のあった福祉用具	32
③ 困った福祉用具の利用頻度	36
(4) 福祉用具の情報入手先	41
(5) 福祉用具の今後の情報入手希望先	43
4. 今後の福祉用具開発についての提言	44
(1) 提言にあたって	44
(2) 個別用具についての提言	44
① 車椅子	44
② 電動ベッド	47
③ ポータブルトイレ	50
④ 尿取りパット	52
⑤ 紙おむつ	54

⑥ 靴	5 5
⑦ 杖	5 7
⑧ 入浴用椅子	5 8
⑨ エプロン	6 0
⑩ スロープ	6 1
⑪ シルバーカー	6 2
⑫ 歩行器・歩行車	6 4
5. 本人・家族の要望事項（問1 4のまとめ）	6 6
6. 回答者自由意見	6 9
(1) 支援者の自由意見	6 9
(2) 本人・家族の自由意見	7 0
参考資料	7 1
挨拶文	7 2
アンケート用紙（支援者用）	7 3
アンケート用紙（本人・家族用）	7 7

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

岡山県では、医療・福祉・健康関連産業を、重点的に産業振興を図るべき4分野の1つと位置付けており、平成15年10月に産学官民からなる福祉用具開発支援組織の「ハートフルビジネスおかやま」を設立し、利用者に真に必要なとされる福祉用具の開発支援に取り組んでいます。

こうした中、平成16年2月6日付で「おかやま産業雇用戦略会議」の提言が県知事に提出されました。そしてその中で戦略その3として「高齢者サービス産業の形成へ医療と福祉の連携」として、医療・福祉関連産業の育成があります。福祉用具の開発において最も重要とされている、高齢者・障害者等の利用者ニーズを把握・収集するため、中国経済産業局の補助を受けてアンケート調査を実施しました。

(2) 調査の方法

- ・対象者 後述するように岡山県庁のホームページから対象者を選定してアンケート用紙を送付しました。送付先954通。
- ・調査期間 平成17年12月～18年1月
- ・調査方法 対象者に「支援者用」「本人・家族用」の2種類の調査票を2部ずつ送付

(3) アンケートの送付先と回収状況

①アンケート送付先

アンケート送付先の選定に当たり、岡山県ホームページから保健福祉部施設指導課の「保健福祉施設」の一覧表のうち、「4老人福祉」施設および「9保健施設」の中から選定しました。

なお老人施設のうち「老人福祉施設」、「老人福祉センター」、「老人憩の家」を除外しました。また保健施設のうち「(老人)訪問介護ステーション」を加えました。

なお施設のデータは平成17年4月1日現在のものです。

②アンケート回収状況

対象別有効回答数

対 象	有効回答数
支援者	198
本人・家族	162

実際のアンケート送付先については上記基礎データから重複を除き、次のように選定しました。

<< アンケート送付先 >>

施設名	施設数
養護老人ホーム	23
特別養護老人ホーム	94
ケアハウス（軽費老人ホーム）	36
軽費老人ホームA、B型	2
有料老人ホーム	23
老人短期入所施設	3
生活支援ハウス（高齢者生活福祉センター）	4
老人デイサービスセンター	317
在宅介護支援センター	105
認知症対応型共同生活介護事業所（グループホーム）	177
（老人）訪問介護ステーション	170
合計	954

（居宅介護支援事業所、訪問看護事業所、老人保健施設）

（４）質問内容

- ・回答者の概要
 - 年齢、性別、活動の場所、職種（支援者用）
 - 年齢、性別、生活の場所、日常生活や障害・要介護の状況（本人・家族用）
- ・介護保険・支援費制度導入後の福祉用具を取り巻く環境の変化
- ・福祉用具との関わりや利用状況、情報の入手状況と今後の展望
- ・福祉用具の改善要望、開発の具体的な提案
- ・行政・製造業者等への要望 など

（５）調査の企画・実施並びに報告書作成委託先

企業名：株式会社アルマ経営研究所

住 所：岡山市北方1丁目1-9

代表者：代表取締役 原田林長

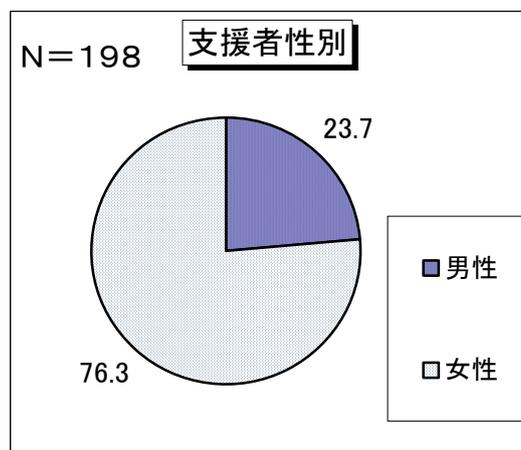
実施責任者：取締役 加藤瑠一

2. 支援者の意見

(1) 回答者のプロフィール

① 支援者の性別

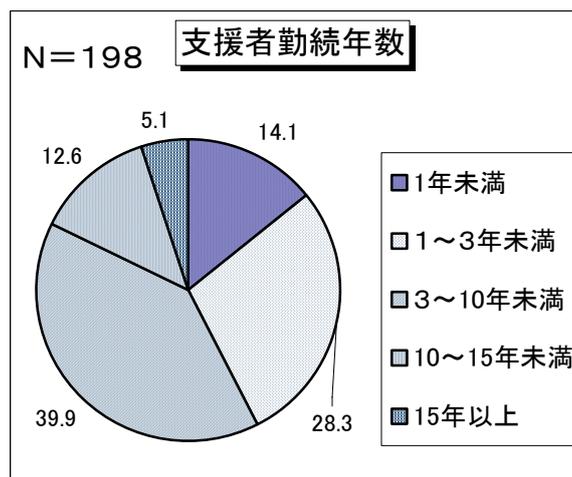
仕事の特性上女性が圧倒的に多く全体の76.3%を占めています。



② 勤続年数

支援者の勤続年数構成については「3年～10年未満」が39.9%、「1年～3年未満」が28.3%となり、1年以上10年未満が全体の68.2%を占めています。

一方、10年以上の人も17.7%おり、1年未満も14.1%勤務しているが、この比率は回答者の比率であり、通常回答者はベテランとなりやすいため在職者の比率ではありません。

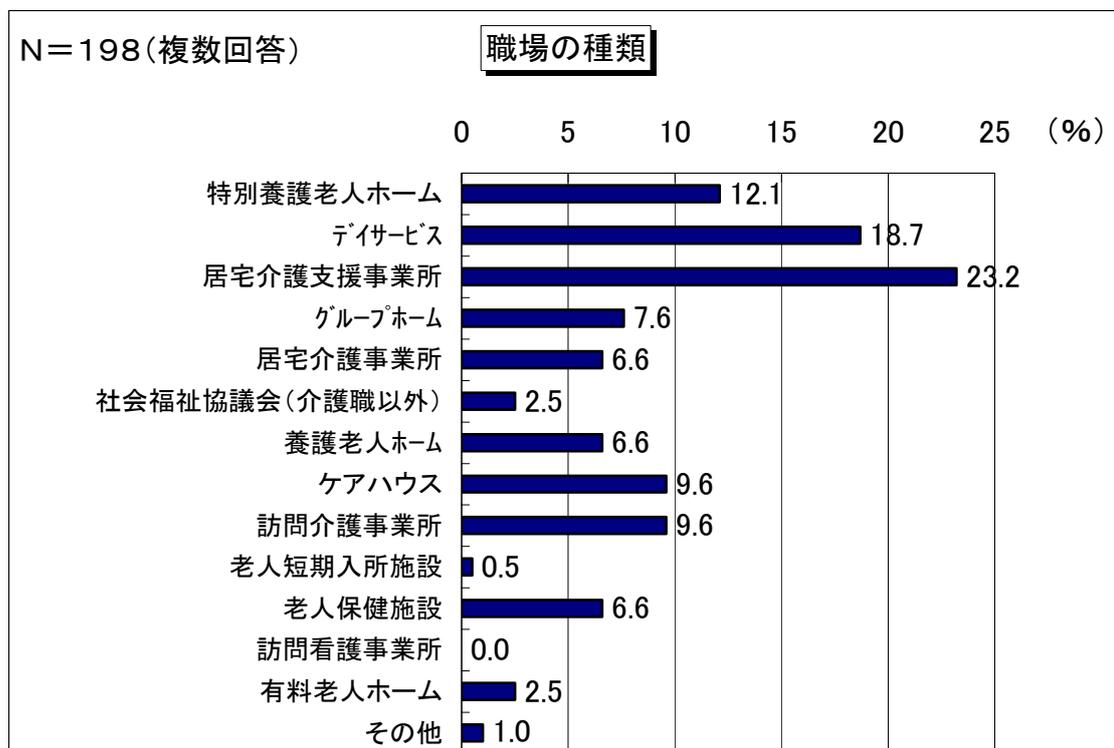


③ 職場

回答者の職場構成は以下のグラフのようになっています。

ウェイトの高いのは「居宅介護支援事業所」の20.7%、「デイサービス」の18.7%、「特別養護老人ホーム」12.1%、「ケアハウス」および「訪問介護事業所」

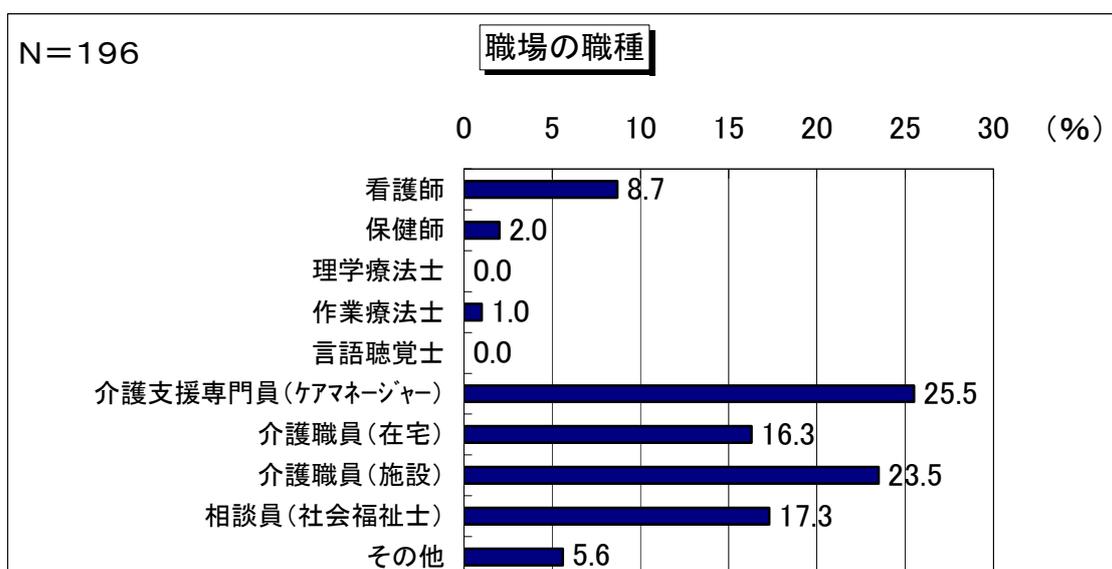
の各9.6%です。



※注:「居宅介護支援事業所」と「居宅介護事業所」は同一のもののため、統合しました。

④職種

職種については「介護支援専門家(ケアマネージャー)」が25.5%、「介護職員(施設)」が23.5%、「相談員」17.3%、「介護職員(在宅)」が16.3%となり、この4職種で合計82.6%を占めています。これらの人は日常「要介護者」の方にかかわっているため適切な回答が担保されているものと考えられます。



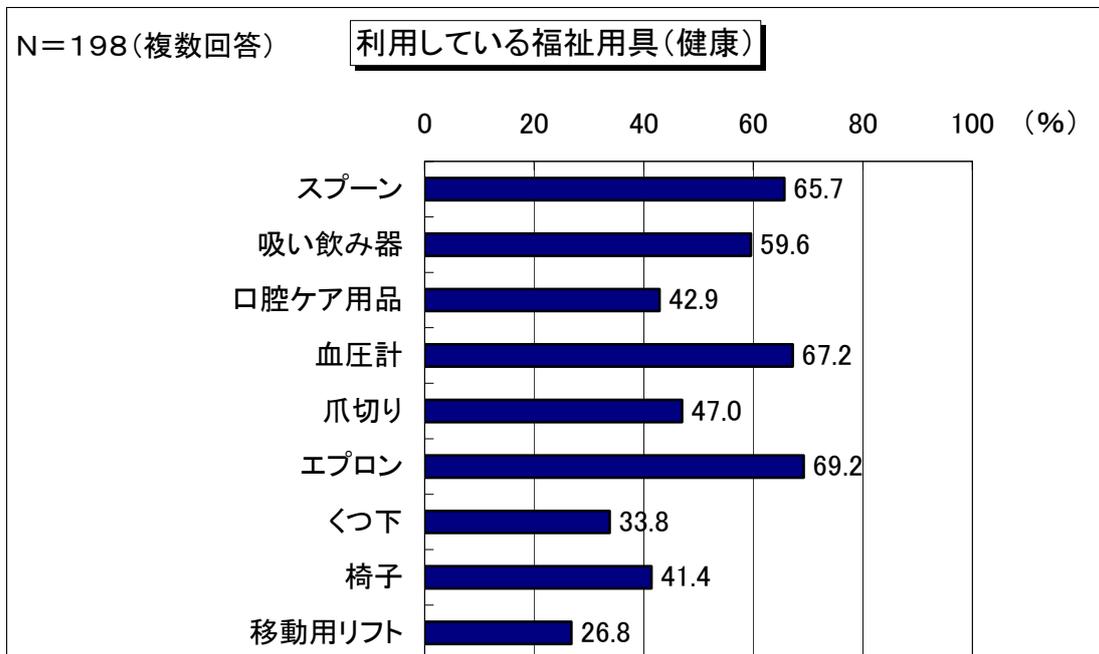
(2) 回答者の利用している福祉用具

利用している福祉用具については「健康関係用品」、「入浴関係用品」、「特殊寝台」、「衣料品」、「トイレ用品」、「歩行補助用具」、「住宅関連」、「その他」に分けて回答を求めたため、まずここでは個別に利用状況を確認します。

① 「健康関係用品」

この分野での利用頻度が高いものは「エプロン」が69.2%、「血圧計」が67.2%、「スプーン」が65.7%、「吸い飲み器」が59.6%と高い利用頻度を示しています。

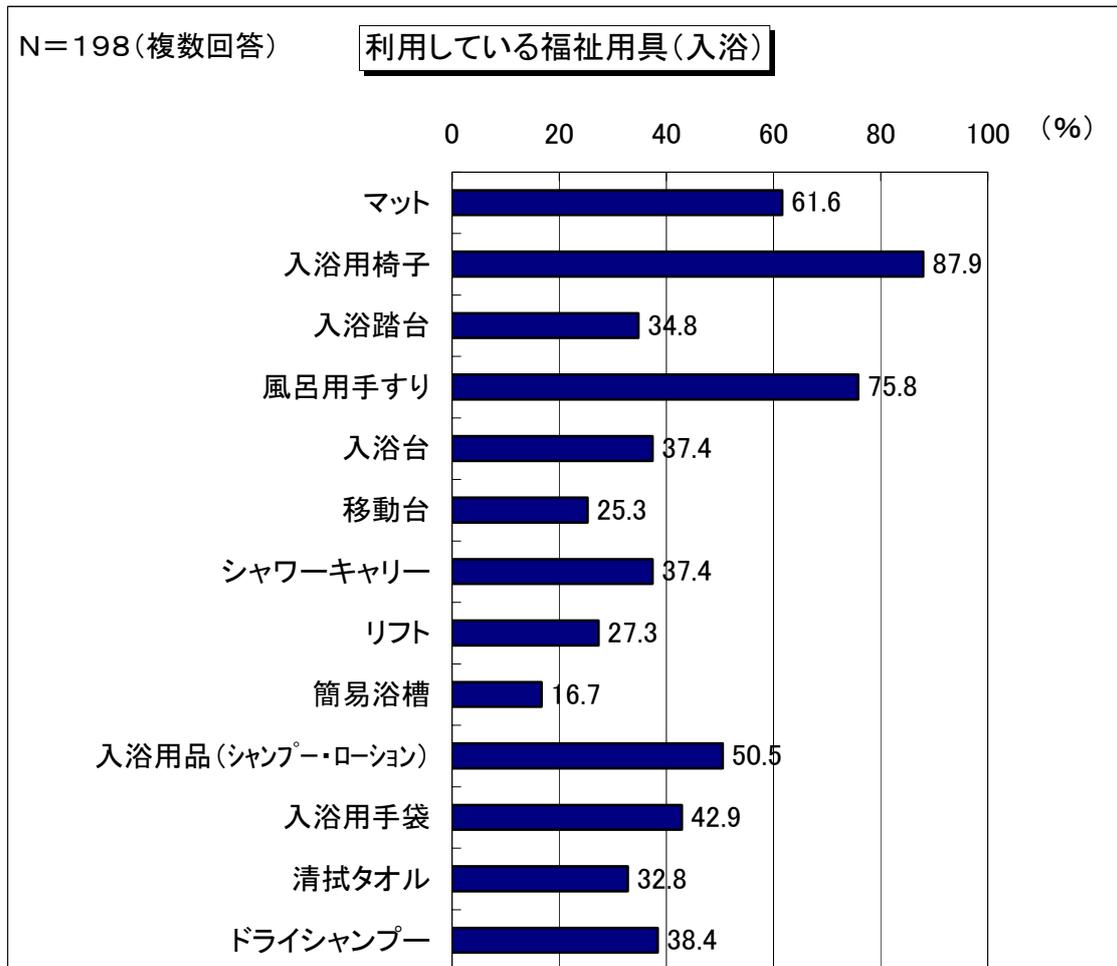
一方「移動用リフト」は26.8%で、利用している割合は5.9%と低い値を示しています。



② 「入浴関係用品」

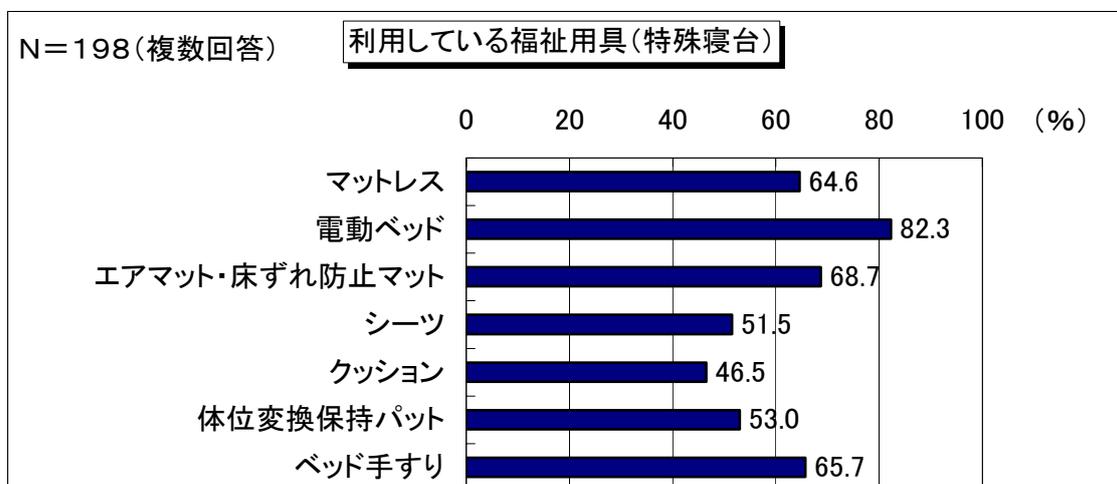
この分野では「入浴用椅子」が87.9%、「風呂用手すり」が75.8%、「マット」が61.6%と比較的高い利用頻度を示しています。これらについては価格的にも安価で、比較的便利な用具のため利用頻度が高くなっているものと考えられます。

一方「簡易浴槽」、「移動台」、「リフト」は各々16.7%、25.3%、27.3%と比較的低い利用状況を示しています。



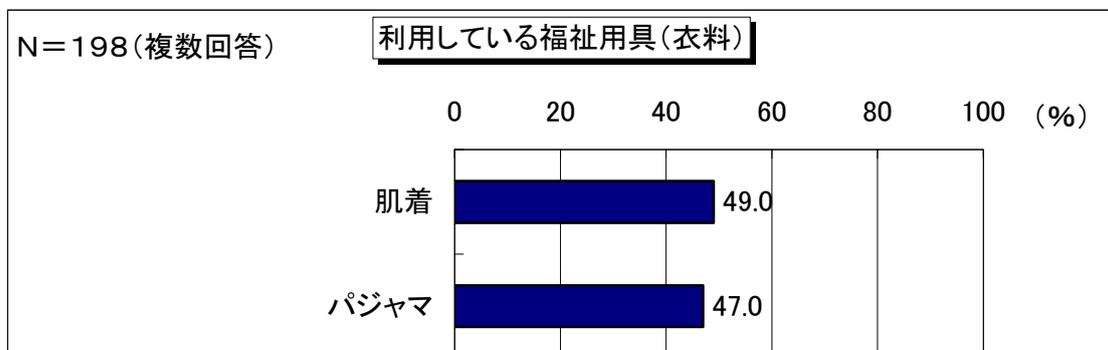
③「特殊寝台」

この分野では「電動ベッド」が82.3%、「エアマット・床ずれ防止マット」が68.7%、「マットレス」が64.6%となり、比較的使用頻度が高くなっています。しかしその他の用具についても比較的高い利用率となっています。



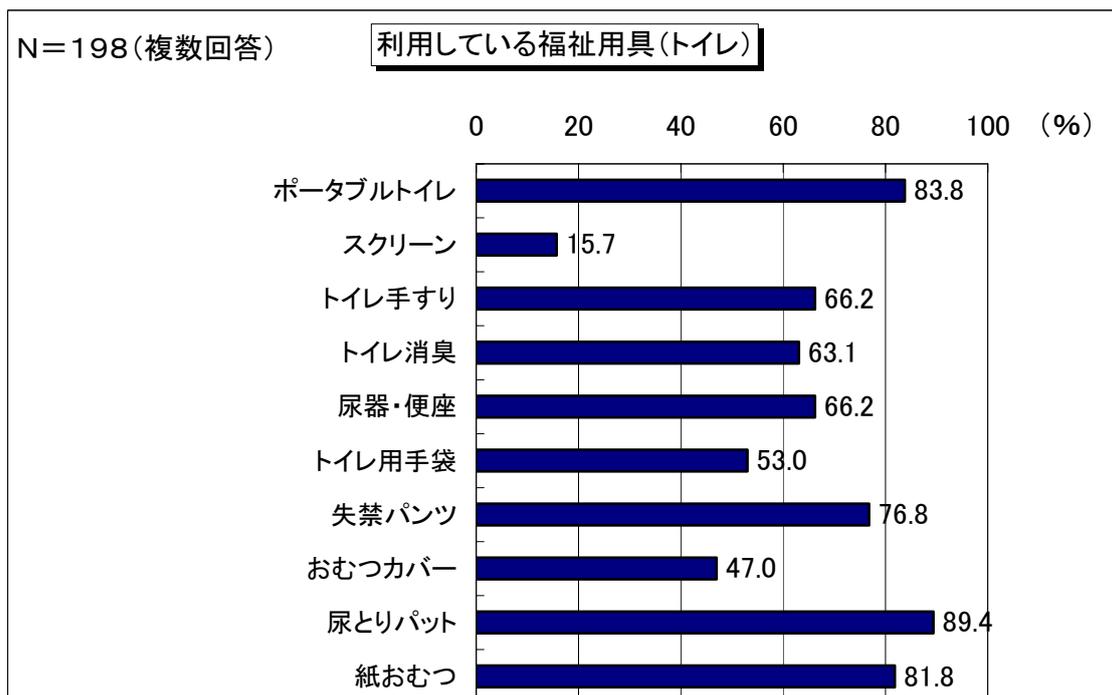
④ 「衣料品」

衣料品については「肌着」が49%、「パジャマ」が47%と利用頻度があまり高く現れていません。



⑤ 「トイレ用品」

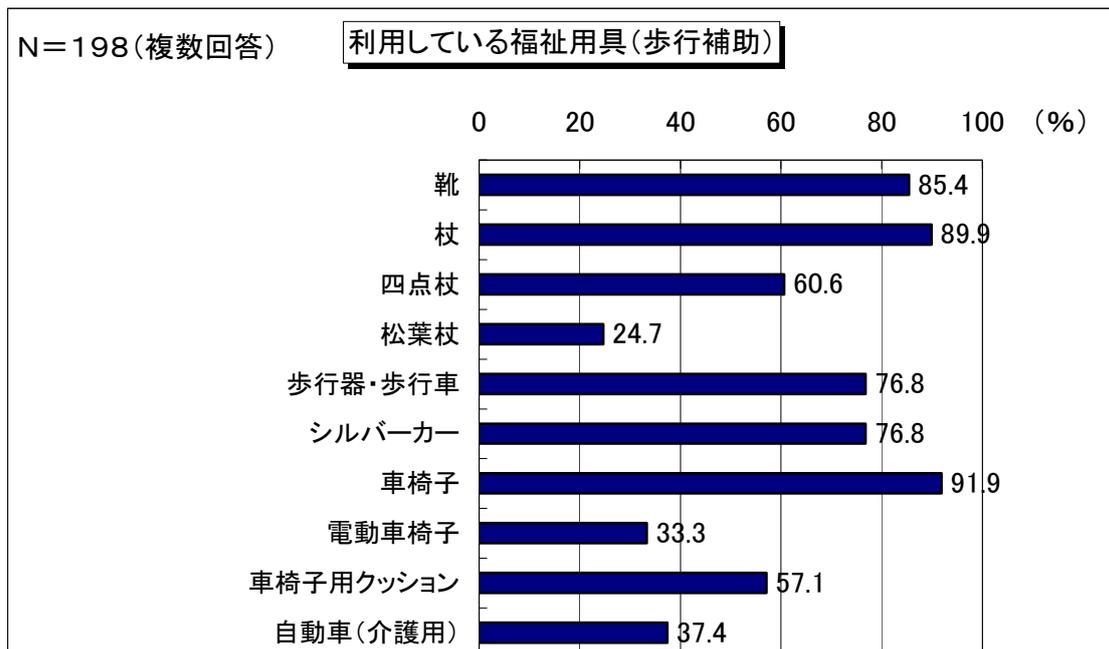
トイレ関連では「尿取りパット」が89.4%、「ポータブルトイレ」が83.8%、「紙おむつ」が81.8%、「失禁パンツ」が76.8%と比較的高い利用頻度あります。



⑥ 「歩行補助用具」

歩行補助用具では「車椅子」が91.9%、自律歩行可能者の用具としての「杖」が89.9%、「4点杖」が60.6%、「歩行器・歩行車」が76.8%、「シルバーカー」が76.8%となっています。

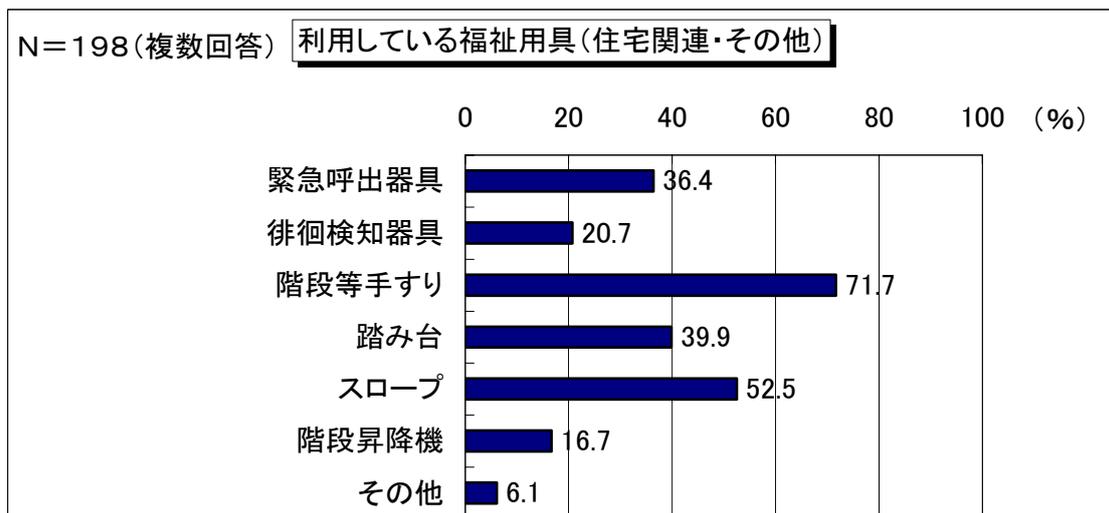
一方、「松葉杖」は24.7%、「電動車椅子」は33.3%、「自動車(介護用)」は37.4%と比較的利用頻度が低くなっています。



⑦ 「住宅関連」

住宅関係では「階段等手すり」が71.7%、「スロープ」が52.5%となっています。

一方、「徘徊検知用具」は20.7%、「緊急呼出用具」は36.4%と比較的低い利用状況にあります。

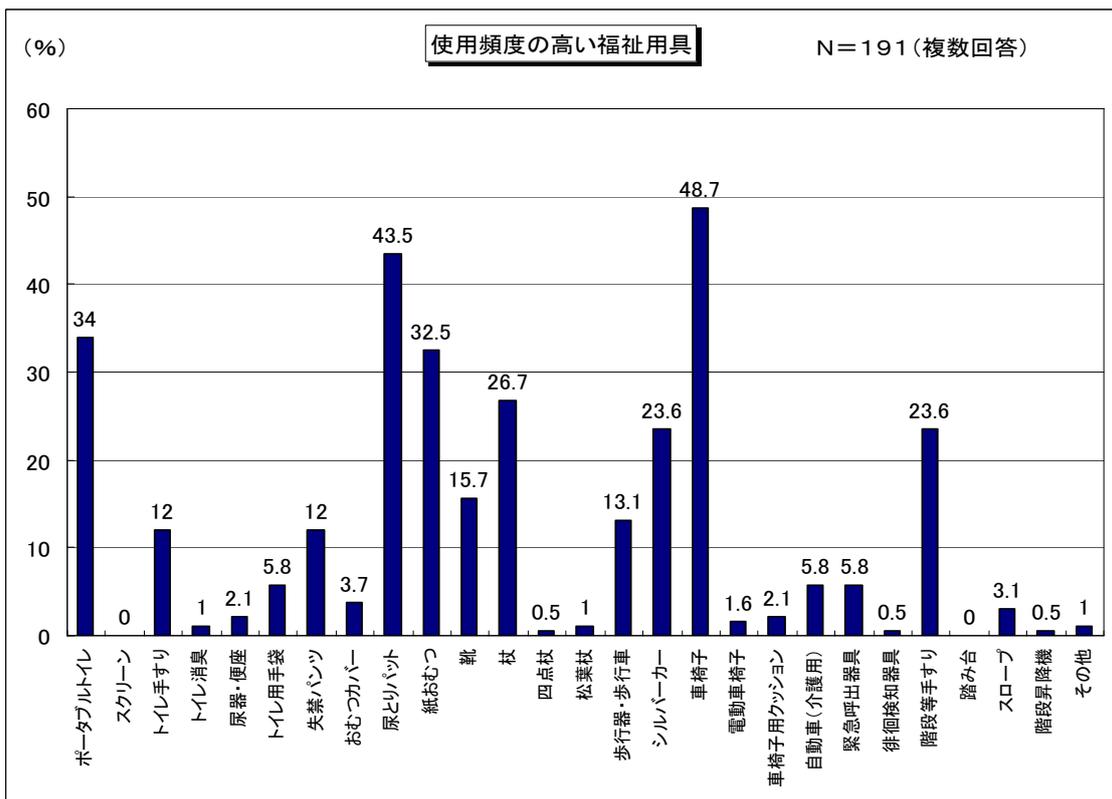
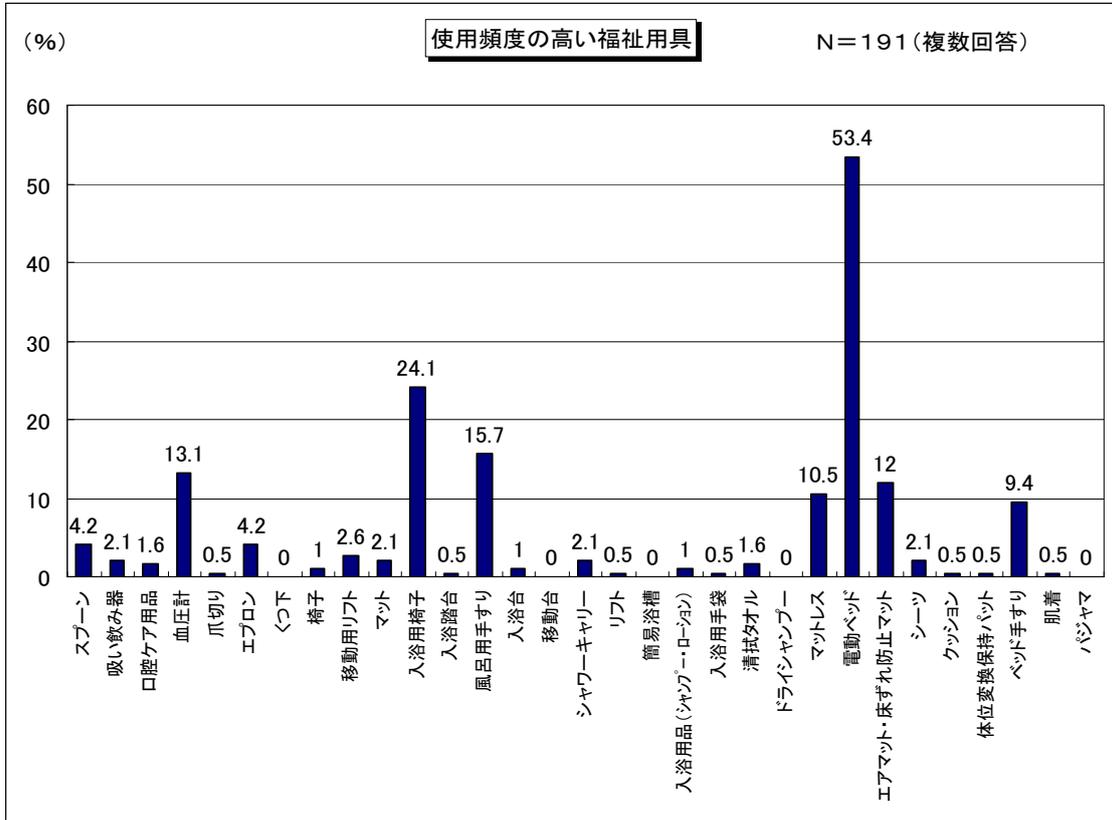


(3) 回答者の利用している福祉用具の利用頻度

福祉用具の利用頻度について、頻度が高いもの5つを順番にあげてもらったところ、次のような結果になりました。

①「総合利用頻度」

ここでは、「電動ベッド」が53.4%、「車椅子」が48.7%、「尿とりパット」が43.5%、「紙おむつ」が32.5%と比較的高い利用頻度にあります。



(4) 回答者の福祉用具に対する意見

①利用頻度の高い用具

用具に対する支援者の意見を分析するのにあたり、まず、用具別の利用頻度を明らかにして、その上で問題点を示します。

今回、回答いただいた方の主な職場をみると（総数152件）、デイサービス29件（19.1%）、特別養護老人ホーム23件（15.1%）、居宅介護支援事業所28件（18.4%）、ケアハウス15件（9.9%）となりました。

●主な職場別に見る使用頻度の高い用具

項目	特別養護老人ホーム	デイサービス	居宅介護支援事業所
回答数	23	29	28
電動ベッド	15 65.2%	尿とりパット 17 58.6%	電動ベッド 37 132.1%
車椅子	15 65.2%	車椅子 17 58.6%	PT 22 78.6%
尿とりパット	14 60.9%	紙おむつ 15 51.7%	車椅子 19 67.9%
紙おむつ	12 52.2%	血圧計 12 41.4%	入浴用椅子 16 57.1%
PT	8 34.8%	入浴用椅子 10 34.5%	尿とりパット 14 50.0%
エアマット	5 21.7%	電動ベッド 10 34.5%	階段手すり 12 42.9%
		杖 10 34.5%	
		階段手すり 10 34.5%	

項目	ケアハウス	訪問介護事業所
回答数	17	15
シルバーカー	15 88.2%	電動ベッド 12 80.0%
杖	12 70.6%	入浴用椅子 8 53.3%
電動ベッド	7 41.2%	風呂手すり 6 40.0%
尿とりパット	7 41.2%	PT 6 40.0%
靴	6 35.3%	紙おむつ 6 40.0%

全体的に、電動ベッド、車椅子が高い傾向でしたが、その他の製品をみると、職場ごとに特徴が見られる結果となりました。

特別養護老人ホームではエアマット（21.7%）、デイサービスでは血圧計（41.4%）、ケアハウスではシルバーカー（88.2%）が他の職場にはない特徴的な福祉用具であるといえます。

●職種ごとに見る使用頻度の高い商品

項目	介護支援専門員(ケアマネジャー)		介護職員(在宅)	
回答数	39		24	
電動ベッド	39	100%	電動ベッド	18 75.0%
ポータブルトイレ	27	69.2%	車椅子	15 62.5%
車椅子	24	61.5%	尿とりパット	12 50.0%
入浴用椅子	17	43.6%	風呂用手すり	11 45.8%
尿とりパット	14	35.9%	ポータブルトイレ	10 41.7%
紙おむつ	14	35.9%	階段等手すり	10 41.7%
階段等手すり	14	35.9%	入浴用椅子	9 37.5%
杖	13	33.3%	紙おむつ	8 33.3%
マットレス	11	28.2%		

項目	介護職員(施設)		相談員(社会福祉士)	
回答数	34		27	
尿とりパット	23	67.6%	尿とりパット	18 66.7%
車椅子	21	61.8%	電動ベッド	17 63.0%
紙おむつ	19	55.9%	車椅子	16 59.3%
電動ベッド	18	52.9%	杖	14 51.9%
杖	12	35.3%	シルバーカー	13 48.1%
ポータブルトイレ	11	32.4%	階段等手すり	10 37.0%
シルバーカー	11	32.4%	紙おむつ	9 33.3%
入浴用椅子	9	26.5%	靴	9 33.3%
風呂用手すり	9	26.5%	ポータブルトイレ	7 25.9%

職場別に比べ、職種別に比較した方が、使用頻度の差異が見られない結果となりました。職種別において特徴的なものは、介護職員(在宅)で風呂用手すり(45.8%)、相談員(社会福祉士)でシルバーカー(48.1%)・靴(33.3%)の利用頻度が高くなったことです。

●勤続年数ごとに見る使用頻度の高い商品

項目	1年未満		1～3年未満		3～10年未満	
回答数	20		46		59	
	尿とりパット	15 75.0%	電動ベッド	33 71.7%	電動ベッド	37 62.7%
	車椅子	14 70.0%	車椅子	27 58.7%	尿とりパット	33 55.9%
	電動ベッド	11 55.0%	尿とりパット	26 56.5%	車椅子	32 54.2%
	紙おむつ	11 55.0%	紙おむつ	20 43.5%	ポータブルトイレ	26 44.1%
	杖	10 50.0%	ポータブルトイレ	18 39.1%	紙おむつ	25 42.4%
	階段等手すり	10 50.0%	入浴用椅子	16 34.8%	杖	22 37.3%
	ポータブルトイレ	8 40.0%	杖	13 28.3%	シルバーカー	18 30.5%
	靴	7 35.0%	シルバーカー	13 28.3%	入浴用椅子	15 25.4%
	シルバーカー	7 35.0%	階段等手すり	10 21.7%	階段等手すり	15 25.4%
	風呂用手すり	6 30.0%	トイレ手すり	8 17.4%	靴	14 23.7%

	10～15年未満		15年以上	
回答数	21		6	
	電動ベッド	17 81.0%	車椅子	6 100.0%
	車椅子	14 66.7%	ポータブルトイレ	5 83.3%
	入浴用椅子	8 38.1%	入浴用椅子	4 66.7%
	ポータブルトイレ	8 38.1%	電動ベッド	4 66.7%
	尿とりパット	8 38.1%	シルバーカー	4 66.7%
	階段等手すり	7 33.3%	失禁パンツ	3 50.0%
	エアマット	6 28.6%	階段等手すり	3 50.0%
	トイレ手すり	5 23.8%	血圧計	2 33.3%
	紙おむつ	5 23.8%	移動用リフト	2 33.3%
	杖	5 23.8%	風呂用手すり	2 33.3%

勤続年数別に見ても、電動ベッド、車椅子については概ね高い回答となり、特に高い使用率の福祉用具については、勤続年数別に大きな差異はありませんでした。ただし下位の回答(使用率20～40%)では勤続年数別で差異が見られました。

②職場別にみる困った点

●職場別にみる困った点の有無

項目	特養	デイサービス	居宅	グループホーム	在介	社協
ある	12	17	25	11	11	3
回答数	21	28	28	12	11	3
ある割合	57.1%	60.7%	89.3%	91.7%	100.0%	100.0%

項目	養護	ケアハウス	訪介	老健	有料
ある	3	7	9	10	1
回答数	10	15	13	2	2
ある割合	30.0%	46.7%	69.2%	500.0%	50.0%

※特養＝特別養護老人ホーム 居宅＝居宅介護支援事業所

在介＝在宅介護支援センター 社協＝社会福祉協議会 養護＝養護老人ホーム

訪介＝訪問介護事業所 老健＝老人保健施設 有料＝有料老人ホーム

職場別に使用した（していた）福祉用具の中で困った点があったかを尋ねると、「ある」と回答した割合には大きな差異が見られました。サンプル数が比較的多い職場でみると、居宅介護支援事業所が89.3%と高く、ケアハウスでは46.7%と低い結果となりました。

●困った福祉用具の種類数（全調査項目数57製品）

項目	困った用具の種類	調査製品に占める割合	回答数	回答確率
居宅介護支援事業所	32	56.1%	33	97.0%
デイサービス	17	29.8%	29	58.6%
訪問介護事業所	16	28.1%	15	106.7%
グループホーム	13	22.8%	12	108.3%
特別養護老人ホーム	19	33.3%	23	82.6%
老人保健施設	13	22.8%	3	433.3%
在宅介護支援センター	11	19.3%	13	84.6%
ケアハウス	7	12.3%	17	41.2%
有料老人ホーム	2	3.5%	3	66.7%
社会福祉協議会	3	5.3%	3	100.0%
その他	3	5.3%	2	150.0%
	136		153	88.9%

困った福祉用具の種類数では、居宅介護支援事業所が56.1%の製品について困ったと回答しています。この理由は、あらゆる介護度の利用者を相手にするとともに、在宅・施設サービスについて横断的に対応しているためと思われます。

その他の職場では2、3割程度となっており、上記の困った点の有無と同様にケアハウスについては低い数値となりました

●回答数の多い職場ごとの困った福祉用具

居宅介護支援事業所	グループホーム	訪問介護事業所	デイサービス	特別養護老人ホーム
エアマット	エアマット	エアマット	車椅子	ポータブルトイレ
紙おむつ	エプロン	紙おむつ	車椅子用クッション	椅子
簡易浴槽	靴	簡易浴槽	血圧計	移動用リフト
靴	車椅子	緊急呼出用具	失禁パンツ	エアマット
車椅子	シーツ	車椅子	自動車(介護用)	紙おむつ
失禁パンツ	シャワーキャリー	血圧計	シャワーキャリー	車椅子
シャワーキャリー	シルバーカー	自動車(介護用)	シルバーカー	車椅子用クッション
シルバーカー	吸い飲み器	シャワーキャリー	スロープ	シルバーカー
スロープ	スプーン	シルバーカー	杖	吸い飲み器
杖	手すり	電動車椅子	手すり	爪きり
電動車椅子	電動ベッド	電動ベッド	トイレ消臭	手袋
電動ベッド	入浴用椅子	尿とりパット	入浴マット	電動車椅子
入浴マット	尿とりパット	ポータブルトイレ	入浴用椅子	電動ベッド
入浴用椅子		歩行器	尿とりパット	入浴台
尿とりパット		松葉杖	風呂用手すり	尿とりパット
パジャマ			歩行器	肌着
ポータブルトイレ				歩行器
歩行器				
リフト				
杖				
電動車椅子				
入浴台				
松葉杖				
8/23	5/13	6/15	5/17	6/18

上記職場で共通して困った点があるものは概ね1/3という結果となりました(この場合4つないし5つの職場で共通しているもの)。

困ったことがある用具の2/3については、職場ごとの使用の有無もありますが、職場別で違いがあると認識できます。使用頻度の面から比較すると、居宅介護支援事業所、特別養護老人ホームについては、使用頻度の高いものはすべて困ったと回答されていますが、訪問介護事業所、デイサービスでは使用頻度が高いものでも困ったと回答されていない用具がありました。

訪問介護事業所、デイサービスでは、個別ないし特殊的な困難点の改善を求められている傾向が強いのではと推測できます。

③職種別にみる困った点

●職種ごとの困った福祉用具の種類数

項目	困った用具の種類	回答数	回答確率
介護支援専門員	19	39	48.7%
介護職員(施設)	19	34	55.9%
介護職員(在宅)	25	24	104.2%
看護師	18	12	150.0%
作業療法士	5	1	500.0%
相談員	15	3	500.0%
保健師	2	3	66.7%
合計	103	116	88.8%

介護職員(在宅)、看護師の方の回答が多い結果となりました。作業療法士、相談員の方は回答数が多かったのですが、サンプル数が少ないため、参考程度に留めます。ただし相談員は広く利用者の声を聞く立場にあるため、上記の結果は妥当かもしれません。

●職種ごとの困った点の有無を聞くと以下のようになっています。

項目	看護師	保健師	作業療法士	介護支援専門員	介護職員(在宅)
ある	7	1	1	28	17
回答数	12	3	1	39	24
ある割合	58.3%	33.3%	100.0%	71.8%	70.8%

項目	介護職員(施設)	相談員(社会福祉士)
ある	22	20
回答数	34	27
ある割合	64.7%	74.1%

職種ごとの困った点の有無では、サンプル数の多い4職種においては概ね60～70%あたりとなりました。どの職種でも困った点の認識度は差異が見られませんでした。

●主な職種別での困った点のある福祉用具

介護支援専門員	介護職員(在宅)	介護職員(施設)	看護師
入浴マット	エプロン	血圧計	スプーン
入浴用椅子	入浴用椅子	爪きり	吸い飲み器
風呂用手すり	リフト	エプロン	血圧計
入浴台	簡易浴槽	椅子	移動用リフト
シャワーキャリー	電動ベッド	移動用リフト	シャワーキャリー
リフト	エアマット・床ずれ防止マット	入浴マット	電動ベッド
簡易浴槽	ポータブルトイレ	入浴用椅子	ポータブルトイレ
電動ベッド	失禁パンツ	風呂用手すり	失禁パンツ
エアマット・床ずれ防止マット	尿とりパット	入浴台	紙おむつ
パジャマ	紙おむつ	シャワーキャリー	歩行器
ポータブルトイレ	松葉杖	電動ベッド	車椅子
紙おむつ	歩行器	エアマット・床ずれ防止マット	手すり
靴	シルバーカー	シーツ	スロープ
歩行器	車椅子	肌着	手袋
シルバーカー	電動車椅子	ポータブルトイレ	尿とりパット
車椅子	車椅子用クッション	手袋	
電動車椅子	自動車(介護用)	おむつカバー	
車椅子用クッション	緊急呼出用具	尿とりパット	
スロープ	スロープ	靴	
		歩行器	
		シルバーカー	
		車椅子	
		電動車椅子	
		自動車(介護用)	
		手すり	
11/19	10/19	9/25	7/15

上記4職種別で共通の度合いを見ると職種では概ね同じ傾向があったのに対し、職種別では異なった傾向にありました。介護職員（施設）の共通の困った種類の福祉用具の割合が低く、ついで看護師となっています。

介護職員（施設）は比較的使用する福祉用具の種類が多く、また看護師は他の3職種と医療面という意味で異なっていることも理由のひとつと考えられます。

④勤務年数にみる困った点

勤務年数ごとに困った点の有無を見ると、サンプルの多い1～3年未満と、3～10年未満についてはほぼ同様の割合となり、この階層の「ある」割合が高い結果となりました。

●勤務年数ごとの困った点の有無

項目	1年未満	1～3年未満	3～10年未満	10～15年未満	15年以上
ある	9	35	45	13	3
回答数	20	46	59	21	6
ある割合	45.0%	76.1%	76.3%	61.9%	50.0%

●勤続年数ごとにみる困った福祉用具の種類数

項目	困った用具の種類数	回答数	回答確率
1年未満	14	20	70.0%
1～3年	31	46	67.4%
3～10年	30	59	50.8%
10～15年	16	21	76.2%
15年以上	5	6	83.3%
合計	96	152	63.2%

勤続年数ごとで困った福祉用具の種類数を見ると、10～15年未満と15年以上の方の困った福祉用具の種類数が多くなりました。上記の困った点が「ある」割合とは反対の結果となりました。

これは「1～3年未満」「3～10年未満」の方よりも「10～15年未満」の方が複数の問題点を指摘される傾向にあるものと考えられます。また問題と考える方とそうでない方の温度差が比較的大きいともいえるかもしれません。

●勤続年数ごとの困った福祉用具

1年未満	1～3年	3～10年	10～15年	15年以上
椅子	移動用リフト	椅子	エアマット・床ずれ防止マット	簡易浴槽
エアマット・床ずれ防止マット	エアマット・床ずれ防止マット	移動用リフト	エプロン	電動ベッド
靴	エプロン	おむつカバー	紙おむつ	入浴用椅子
車椅子	紙おむつ	紙おむつ	靴	徘徊検知用具
シーツ	簡易浴槽	緊急呼出用具	車椅子	ポータブルトイレ
失禁パンツ	緊急呼出用具	靴	車椅子用クッション	
シルバーカー	靴	車椅子	シルバーカー	
スロープ	車椅子	車椅子用クッション	スロープ	
手すり	血圧計	失禁パンツ	杖	
トイレ消臭	失禁パンツ	シャワーキャリー	爪きり	
入浴用椅子	自動車(介護用)	シルバーカー	電動車椅子	
尿とりパット	シャワーキャリー	吸い飲み器	電動ベッド	
風呂用手すり	シルバーカー	スプーン	尿とりパット	
ポータブルトイレ	寝台手すり	スロープ	風呂用手すり	
	吸い飲み器	その他(パイプベッド)	ポータブルトイレ	
	スプーン	杖		
	スロープ	手すり		
	その他(食器)	手袋		
	手すり	電動車椅子		
	手袋	電動ベッド		
	電動車椅子	入浴台		
	電動ベッド	入浴マット		
	入浴台	入浴用椅子		
	入浴マット	尿とりパット		
	入浴用椅子	肌着		
	尿とりパット	ポータブルトイレ		
	パジャマ	歩行器		
	風呂用手すり	松葉杖		
	ポータブルトイレ	リフト		
	歩行器			
	リフト			

各階層のサンプル数が大幅に異なるため単純な比較はできませんが、共通する福祉用具は6製品となっています。「1～3年未満」と「3～10年未満」を比べてみると、21製品について共通して困った点があると回答しています。

(5) 職場・職種・勤務年数別にみる困った福祉用具のまとめ

① 3つの視点から分析を試みた理由

今回、職場別・職種別・勤務年数別ごとに困った福祉用具の分析を試みました。その理由は、福祉用具の利用は、利用者の状況ごとにより、また支援者の利用者の支援内容、支援する環境、支援するキャリアにより差異があるのではと推測したからです。

② 3つの視点から見た福祉用具の困った点の有無

まず、福祉用具に困った点があるかどうかをたずねたところ、職場別では差異が見られました。利用者の状況が多様と考えられる職場では困ったとする回答が高く、比較的同様な傾向の利用者の援助を行う職場では低い傾向となりました。職種別では、大きな差異が見られませんでした。勤務年数では、1～3年未満、3～10年未満のキャリアの方が「ある」と回答するのが高くなっていました。

③ 3つの視点から見た困った福祉用具の種類

つぎに、困った福祉用具の種類を見てみると、職場では、居宅介護支援事業所が高い結果となりました。職種別でみると、介護職員（在宅）、看護師が高く、勤務年数別では、10～15年未満のキャリアの方が高くなりました。困った福祉用具の種類では、3つの視点とも何らかの特徴が確認できました。

④ 困った点の有無と困った福祉用具の種類

困った点が多いと回答した職場・職種・勤続年数ほど、困った福祉用具の種類が多いと推測できると考えましたが、結果はそうではありませんでした。

職場別では、グループホームは困った点があると回答された方が91.7%とサンプル数の多い職場では最も高い数値であるのに対し、困った福祉用具は22.8%と中間的な数値に過ぎませんでした。職場別にみても、介護支援専門員は困った点があると回答された方が71.8%とサンプル数の多い職種でも最も高い数値であるのに対し、困った福祉用具の種類は48.7%ともっとも低い数値となっています。勤続年数に関しても、困った点の有無が高いのは1～3年未満、3～10年未満であるのに対し、困った種類が多いのは、10～15年未満でした。

⑤ 3つの視点からの困った福祉用具

困った福祉用具の具体的なものを見ると、職場別では1/3がどの職場でも共通して困ったと認識されています。職種別では、介護職員（施設）と看護師が特徴的となりました。勤続年数別では、もっとも差異がある結果となったと言えますが、1～3年未満、3～10年未満の2つは、ほぼ困った用具は共通しています。

⑥ 福祉用具の困った点からの開発の方向性

困ったという認識は、今回実施した結果から多様であることが確認できました。福祉用具については、年々開発・改良が進められ、介護や福祉の増進・発展に積極的に寄与していますが、個々の視点から見ると、よりターゲットを絞った製品の開

発が望まれると考えられます。

(6) 福祉用具の改善点（こうしたら、こうだったらと思う点）

①職場別

●デザイン

項目	エプロン	パジャマ	ホータブル トイレ	靴	シルバー カー	車椅子
特別養護老人ホーム	3	-	2	5	3	3
デイサービス	3	2	1	6	1	-
居宅介護支援事業所	-	-	1	4	-	1
グループホーム	4	1	-	3	-	1
在宅介護支援センター	-	2	1	2	1	1
ケアハウス	-	-	-	2	2	-
訪問介護事業所	3	1	-	-	-	-
老人保健施設	-	1	-	1	2	3
有料老人ホーム	1	-	-	-	-	1

デザイン面では、靴、エプロン、シルバーカー、パジャマの順で多い結果となりました。職場別で特に目立った点はなく、上記の製品はデザイン面での改善や開発を共通的に求められているといえます。

●サイズ

項目	電動ベッド	紙おむつ	靴	車椅子
特別養護老人ホーム	-	-	2	3
デイサービス	-	1	1	2
居宅介護支援事業所	3	1	4	2
グループホーム	1	1	2	-
在宅介護支援センター	-	-	4	1
養護老人ホーム	-	-	-	-
ケアハウス	-	-	1	-
訪問介護事業所	1	2	-	1
老人保健施設	-	-	2	3
有料老人ホーム	-	-	-	-

サイズでは、靴、車椅子が多くなっています。職場別では目立った点はなく、上記の製品はサイズでの改善や開発を共通的に求められているといえます。

●重さ・軽さ

項目	電動 ベッド	ポータブル トイレ	四点杖	歩行器	車椅子
特別養護老人ホーム	-	2	-	-	2
デイサービス	-	-	1	2	2
居宅介護支援事業所	4	2	1	1	3
グループホーム	1	2	-	-	-
在宅介護支援センター	2	-	1	1	-
社会福祉協議会(介護職以外)	1	-	-	-	1
ケアハウス	-	1	1	3	3
訪問介護事業所	-	-	-	-	1
老人保健施設	-	1	-	-	3
有料老人ホーム	-	-	-	-	1

重量面では、車椅子への要望が高く、特にケアハウス、老人保健施設において顕著となりました。また歩行器についてもケアハウスからの回答が多くありました。

●種類

項目	スプーン	椅子	電動 ベッド	靴	歩行器	車椅子
特別養護老人ホーム	3	2	-	-	-	2
デイサービス	2	1	-	2	2	4
居宅介護支援事業所	-	-	2	1	1	3
グループホーム	-	1	-	1	-	2
在宅介護支援センター	-	-	1	2	2	1
ケアハウス	-	-	1	-	-	-
訪問介護事業所	-	1	-	-	-	2
老人保健施設	1	-	-	-	1	2

利用者の状態ごとの種類の豊富さでは、車椅子が最も多く、各職場から多くの意見が寄せられました。種類に関する要望ではデイサービスからの回答が多くありました。

●大きい・小さい

項目	電動ベッド	ポータブルトイレ	尿とりパット	紙おむつ	靴	歩行器	車椅子
特別養護老人	-	-	-	3	1	-	2
デイサービス	1	-	1	1	-	-	-
居宅介護支援	1	3	1	-	1	1	1
グループホーム	-	-	1	-	-	-	-
在宅介護支援	-	-	-	-	2	-	-
社会福祉協議会	-	-	-	-	-	-	1
養護老人ホーム	-	-	-	1	-	-	-
ケアハウス	-	-	-	-	-	3	2
訪問介護事業所	1	-	-	1	-	-	1
老人保健施設	1	-	-	-	-	-	1

大きさ・小ささでは、要望数は少ないものの、回答が分散傾向となりました。大きさ・小ささは、特に個別的・特殊的なニーズであると推測できます。

●利用負担

項目	電動ベッド	尿とりパット	紙おむつ	シルバーカー	車椅子
特別養護老人ホーム	-	2	2	1	1
デイサービス	2	2	3	1	1
居宅介護支援事業所	-	1	1	-	-
グループホーム	1	-	-	-	1
在宅介護支援センター	-	4	2	2	-
養護老人ホーム	1	-	-	1	-
ケアハウス	1	1	1	-	-
訪問介護事業所	-	-	-	-	-
老人保健施設	2	-	-	-	1
有料老人ホーム	-	-	-	-	1

利用者の負担軽減では、尿とりパット、紙おむつといった排泄に関する製品が多い結果となりました。利用者の心理的な面も含めた改善や開発が望まれます。

②職種別

●デザイン

項目	エプロン	パジャマ	靴	シルバーカー	車椅子
看護師	-	-	1	-	1
作業療法士	-	-	-	1	1
介護支援専門員	1	1	6	1	1
介護職員(在宅)	5	2	4	-	1
介護職員(施設)	7	2	6	1	4
相談員(社会福祉士)	-	2	4	6	1

介護職員(施設)の方の回答が多くなりました。製品別には衣服と移動となっています。特にエプロンは食事介助をされる介護職員に多く、移動についても同様の傾向が見られました。

●サイズ

項目	電動ベッド	紙おむつ	靴	車椅子
看護師	-	-	-	1
保健師	-	-	-	-
作業療法士	-	-	1	1
介護支援専門員	3	1	8	3
介護職員(在宅)	1	2	-	1
介護職員(施設)	1	-	3	4
相談員(社会福祉士)	-	1	4	3

サイズでは、靴、車椅子の回答が多くなりました。車椅子では職種ごとに共通した認識があるのに対して、靴ではケアマネージャーの意見が多い結果となりました。

●重さ・軽さ

項目	電動ベッド	ポータブルトイレ	歩行器・歩行車	車椅子	スロープ
看護師	-	-	1	-	-
保健師	1	-	-	-	-
作業療法士	-	1	-	-	-
介護支援専門員	4	2	2	4	3
介護職員(在宅)	-	1	1	2	-
介護職員(施設)	2	1	1	6	1
相談員(社会福祉士)	1	1	2	3	4

重量面ではサンプル数の多い職種では主要製品についてはすべてに回答がありました。車椅子について介護職員(施設)からの意見が多い結果となりました。

●種類

項目	くつ下	紙おむつ	松葉杖	シルバーカー
看護師	1	-	1	1
作業療法士	-	-	-	1
介護支援専門員	-	3	2	4
介護職員(在宅)	1	1	-	3
介護職員(施設)	2	2	1	4
相談員(社会福祉士)	-	-	2	3

利用者の状況に応じた種類では、シルバーカーの回答が多くなりました。シルバーカーについては、上記職種ではすべてから回答を得られており、種類の開発や改善では最も重要だといえそうです。

●大きい・小さい

項目	電動ベッド	紙おむつ	靴	歩行器・歩行車	車椅子
保健師	-	1	-	-	-
作業療法士	1	-	-	-	-
介護支援専門員	2	-	2	1	1
介護職員(在宅)	1	1	1	-	2
介護職員(施設)	-	3	-	1	3
相談員(社会福祉士)	-	1	1	2	2

大きい・小さいでは、職場別にみたときと同様に分散傾向にあります。利用者の身体面や機能面（残存機能）からの対応が求められているといえます。

●利用負担

項目	電動ベッド	尿とりパット	紙おむつ	車椅子
看護師	1	-	-	1
保健師	1	-	-	-
介護支援専門員	-	2	3	-
介護職員(在宅)	-	-	-	-
介護職員(施設)	1	3	3	2
相談員(社会福祉士)	4	5	3	1

相談員（社会福祉士）からの回答が多くなりました。利用者の苦情や悩みを最も聞く立場であることが要因の一つであると考えられます。

③勤務年数

●デザイン

項目	エプロン	パジャマ	靴	シルバーカー	車椅子
1年未満	1	-	4	1	-
1～3年未満	8	1	5	4	4
3～10年未満	4	5	12	4	6
10～15年未満	1	1	2	-	-

デザイン面では、「1～3年未満」ではエプロンが、「3～10年未満」では靴が多い結果となりました。全体的にみると、靴が多いと思われます。

●サイズ

項目	電動ベッド	紙おむつ	靴	車椅子
1年未満	-	1	1	2
1～3年未満	2	2	5	3
3～10年未満	1	2	9	6
10～15年未満	2	-	2	2

サイズでは、靴が多く、特に「3～10年未満」の方の回答が多い結果となりました。

●重さ・軽さ

項目	電動ベッド	ポータブルトイレ	歩行器・歩行車	車椅子	スロープ
1年未満	1	-	-	2	-
1～3年未満	2	4	-	5	-
3～10年未満	4	2	6	6	7
10～15年未満	1	1	1	2	1

重量面では車椅子の回答が多い結果となりました。車椅子と電動ベッドはどの年齢層からも回答がありました。歩行器とスロープは「3～10年未満」の方の回答が圧倒的に多くなっています。

●種類

項目	スプーン	椅子	靴	歩行器・歩行車	車椅子
1年未満	-	1	1	-	4
1～3年未満	4	-	3	4	5
3～10年未満	3	3	1	2	6
10～15年未満	-	1	1	-	2

利用者の状況に応じた種類では、車椅子が高い結果となりました。他の用具は分散傾向にあります。

●大きい・小さい

項目	電動ベッド	紙おむつ	靴	歩行器・ 歩行車	車椅子
1年未満	1	1	-	-	-
1～3年未満	2	-	1	-	2
3～10年未満	1	4	2	3	3
10～15年未満	-	-	1	1	3
15年以上	-	1	-	-	-

大きい・小さいは、職場別・職種別と同様に分散傾向にあります。また、「3～10年未満」の方は上記製品すべてに回答がありました。

●利用負担

項目	電動ベッド	尿とりパット	紙おむつ	シルバー カー	車椅子
1年未満	1	-	1	-	1
1～3年未満	3	5	4	-	2
3～10年未満	2	4	2	3	2
10～15年未満	-	1	2	1	-
15年以上	1	-	-	1	-

利用負担では、概ね排泄に関する製品が高い傾向にありました。シルバーカーでは比較的キャリアが長い方、車椅子は比較的キャリアの浅い方からの回答傾向となっています。

(7) 職場・職種・勤務年数別にみるこうしたら、こうだったらと思う点のまとめ

①3つの視点から分析を試みた理由

困った福祉用具と同様に差異があると推測したのですが、困った福祉用具に比べて、こうしたら・こうだったらという希望は、より差異が特徴的となるのではと推測しました。

②デザイン

職場別では、靴、エプロンが多くなりました。職種別では、靴、エプロン、勤務年数別では、靴、エプロンという結果になりました。他の製品をみても、車椅子、シルバーカー、パジャマと概ね一致した結果となりました。靴、エプロンは日常用品として一般にも利用されることから、ユニバーサルデザイン化への期待は大きいと考えられます。

③サイズ

職場別では目立った特徴はなく、職種別では靴、車椅子の回答が多い結果となりました。勤務年数では、靴が多く、特に3年～10年未満の方の回答が高い結果となりました。サイズでは移動に関する製品の開発が望まれています。

④重さ・軽さ

職種別では車椅子が高く、ケアハウス、老人保健施設において回答割合が高い結果となりました。職種別でも車椅子が多かったのですが、職種別の差異はありませんでした。勤続年数別では、車椅子、電動ベッド、歩行器が高く、歩行器とスロープでは3～10年未満の方の回答が圧倒的に多くなりました。サイズと同様、移動に関する製品の開発が望まれています。

⑤種類

職場別では、車椅子が最も高くなりました。特にデイサービスからの回答が多い結果となっています。職種別では、シルバーカーの回答が高く、勤続年数では車椅子が多くなっています。ここでも移動に関する用具の要望が高く、特に車椅子への期待が大きいことがわかります。

⑥大きい・小さい

職場別では、回答数が比較的少なく、また用具も分散する傾向にありました。職種別、勤続年数別についても同様の結果になりました。ここでは主に身体的特性に合った個別的なニーズの充足が必要と考えられます。

⑦利用負担

職場別では、尿とりパット、紙おむつが多くなりました。職場別・勤続年数別についても同様の結果になりました。排泄に関する用具の回答が多く、この用具は介護用品の中でも使用頻度の高い製品です。

⑧支援者の要望からみた、今後の開発の方向性

アンケートの結果を分析してみると、職場別・職種別・勤続年数別で大きな差異はありませんでした。これは困った点での分析と異なる結果となりました。

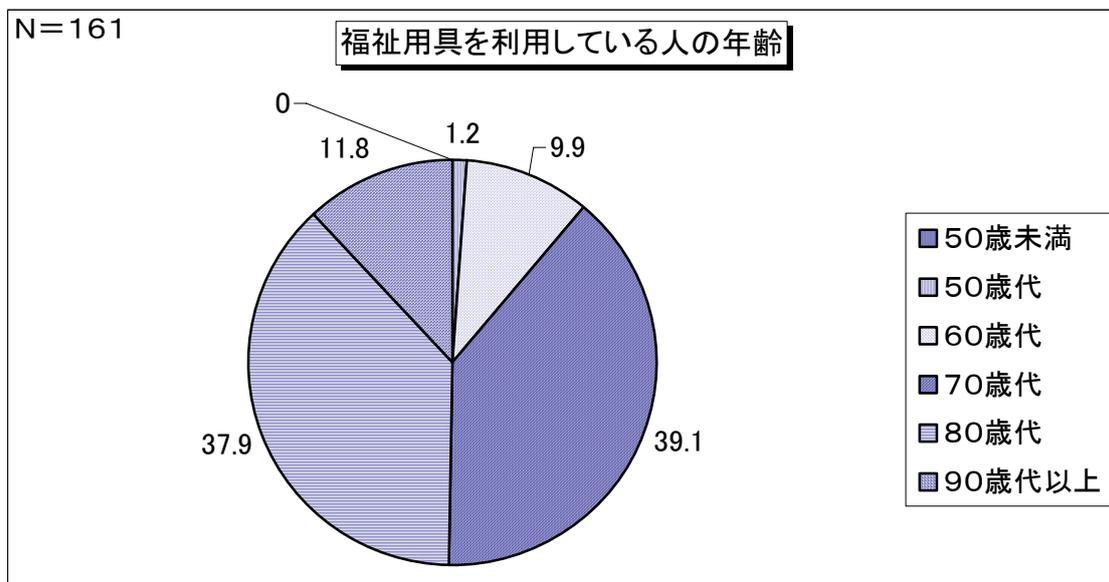
ただし、今回の分析結果では、要望の分類別で、期待される福祉用具が明確になりました。特に車椅子に対する開発・改善の期待が極めて高い結果となりました。

3. 本人・家族の意見

(1) 回答者のプロフィール

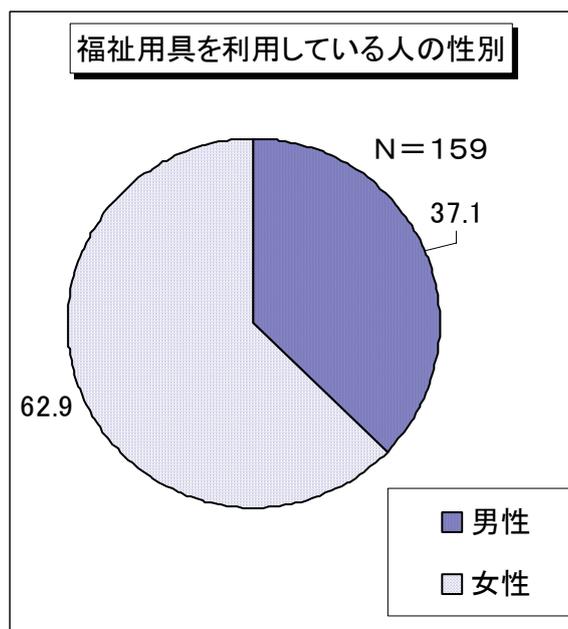
①福祉用具利用者の年齢

圧倒的に70代、80代が多く、これらで全体の77%を占めています。



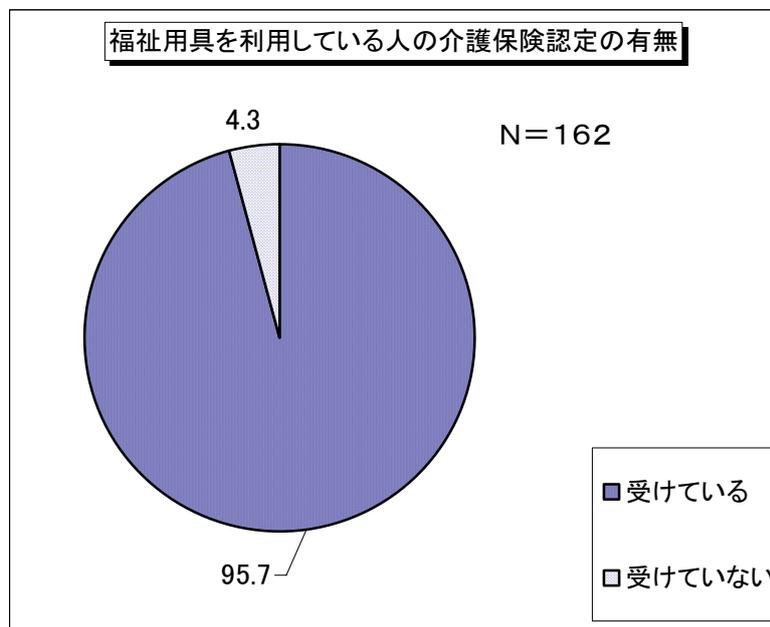
②福祉用具利用者の性別

女性が62.9%、男性が37.1%となっています。

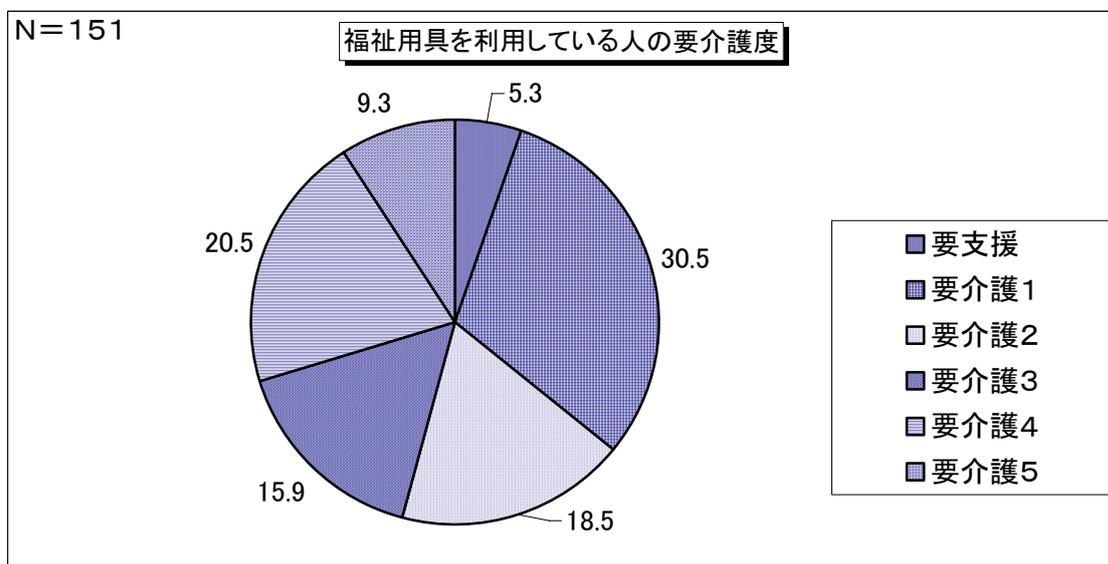


③介護保険の認定の有無

ほとんどの人が認定を受けており、95.7%を占めています。



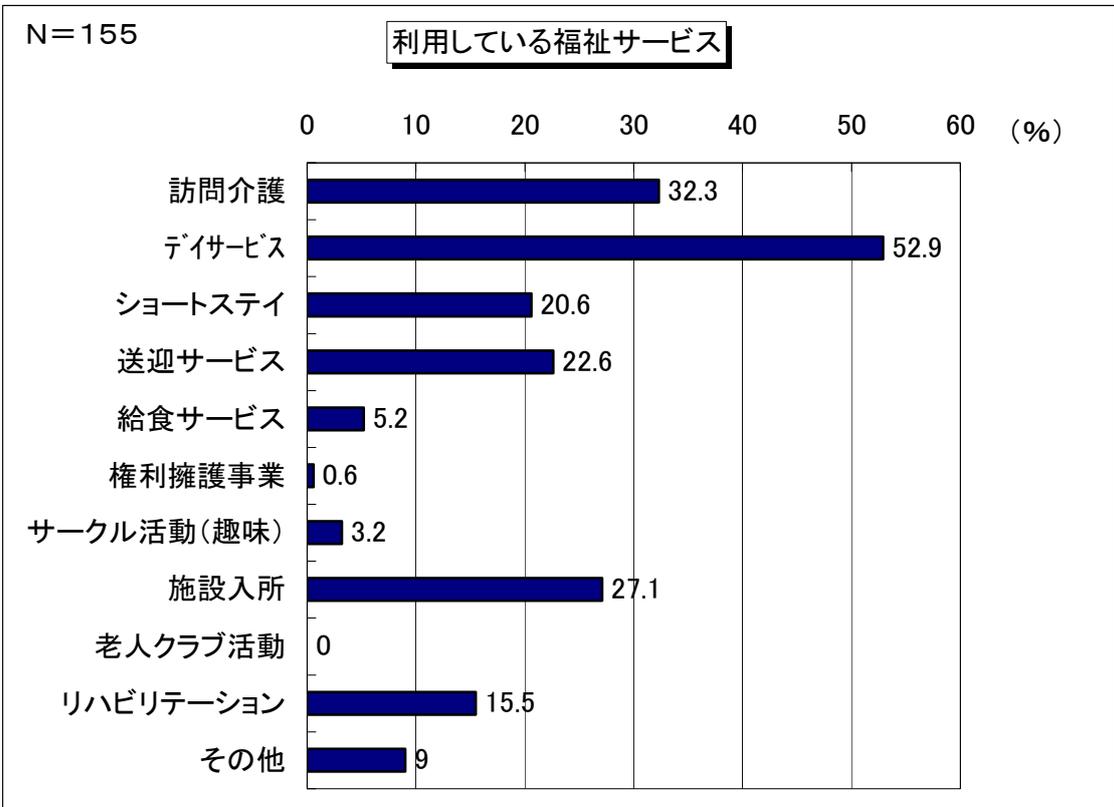
介護度は次のとおり、比較的軽度である要介護度1～3が64.9%、要介護度4、5が29.8%を占めています。



(2) 利用しているサービス等

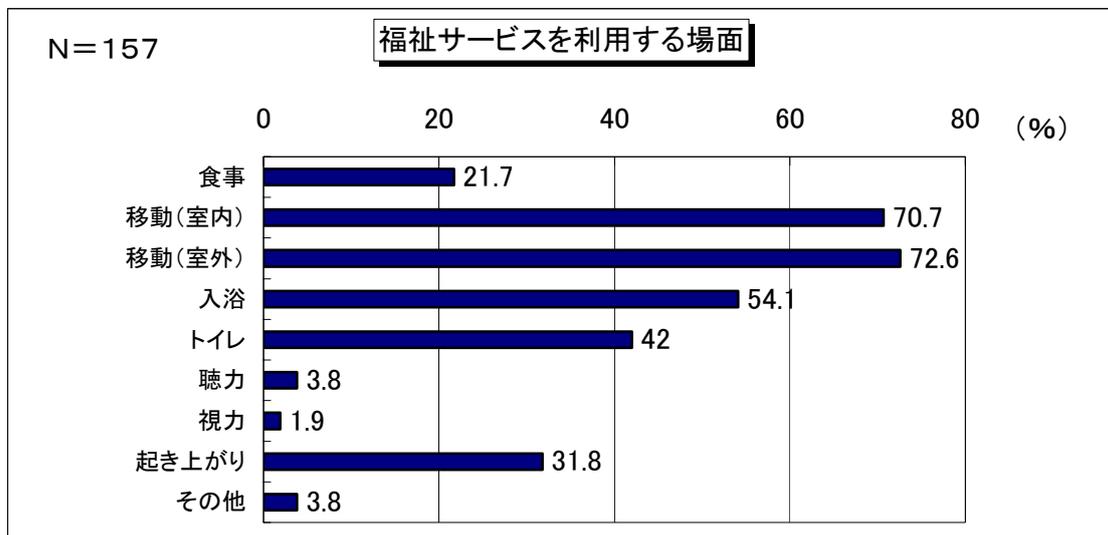
①利用している福祉サービス

利用している福祉サービスで一番多いのは、デイサービスの52.9%。次いで、訪問介護の32.3%となっています。逆に利用頻度の低いサービスは老人クラブ活動の0%や権利擁護事業の0.6%です。



②福祉用具を利用している場面

福祉用具をよく利用している場面は、移動で、室内、屋外ともに70%以上を占めています。次いで、入浴時の54.1%、トイレの42%となっています。



●介護度別の利用する福祉用具

要支援	
回答人数	8 人
移動(室外)	5 62.5%
移動(室内)	3 37.5%
入浴	3 37.5%
トイレ	2 25.0%
起き上がり	1 12.5%
食事	1 12.5%

要介護1	
回答人数	46 人
移動(室外)	35 76.1%
移動(室内)	27 58.7%
入浴	23 50.0%
起き上がり	14 30.4%
トイレ	12 26.1%
食事	4 8.7%
聴力	4 8.7%
視力	1 2.2%

要介護2	
回答人数	28 人
移動(室内)	18 64.3%
移動(室外)	16 57.1%
入浴	15 53.6%
トイレ	11 39.3%
起き上がり	7 25.0%
食事	4 14.3%
視力	1 3.6%
聴力	1 3.6%

要介護3	
回答人数	24 人
移動(室内)	19 79.2%
移動(室外)	17 70.8%
入浴	15 62.5%
トイレ	14 58.3%
起き上がり	9 37.5%
食事	3 12.5%
視力	1 4.2%
聴力	1 4.2%

要介護4		
回答人数	31	人
移動(室内)	23	74.2%
移動(室外)	21	67.7%
トイレ	17	54.8%
食事	15	48.4%
入浴	15	48.4%
起き上がり	10	32.3%

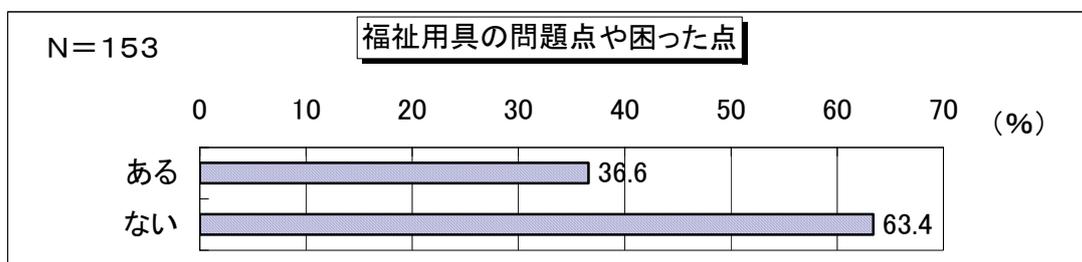
要介護5		
回答人数	14	人
移動(室内)	10	71.4%
移動(室外)	9	64.3%
入浴	8	57.1%
起き上がり	7	50.0%
トイレ	6	42.9%
食事	4	28.6%

介護度別に使用する福祉用具の分類を見ると、どの介護度においても、移動（室外・室内）が多くなっています。この2分類に続いて、入浴、トイレ、起き上がりが多い傾向にありましたが、これらの製品については、介護度別で差異が確認されました。要介護4では、食事が48.4%と他の介護度より高く、要介護5では、起き上がりが50.0%と他の介護度より高い結果となっています。

(3) 福祉用具に対する問題点等

①福祉用具に対する問題点や困った点の有無

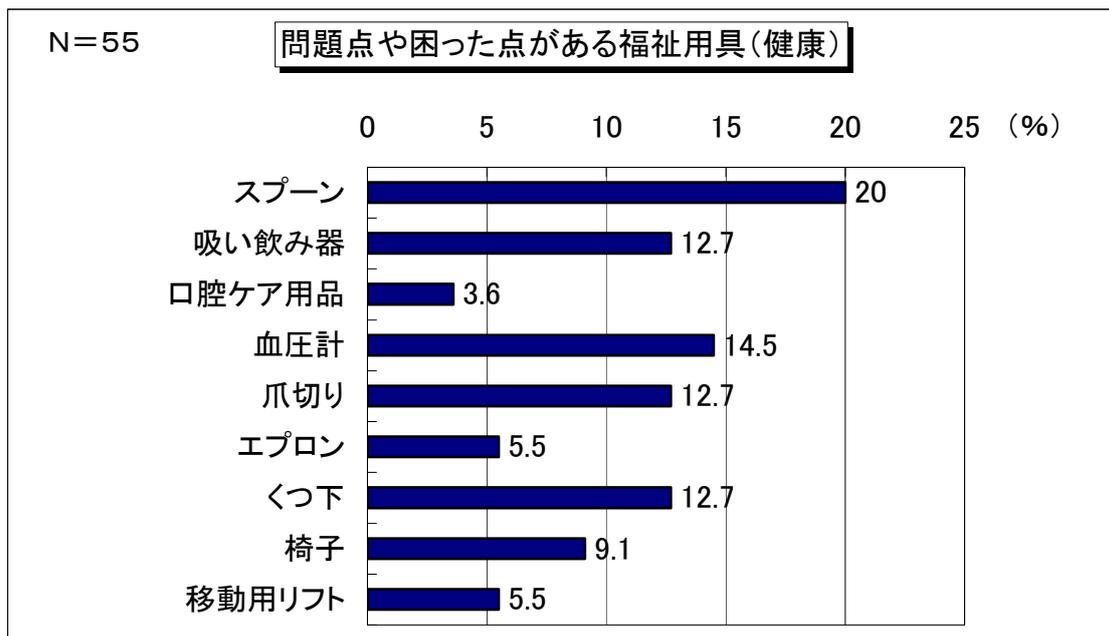
福祉用具に対して問題点や困った点が「ある」と回答した人は36.6%。「ない」と回答した人は63.4%です。



②問題点や困った点のある福祉用具

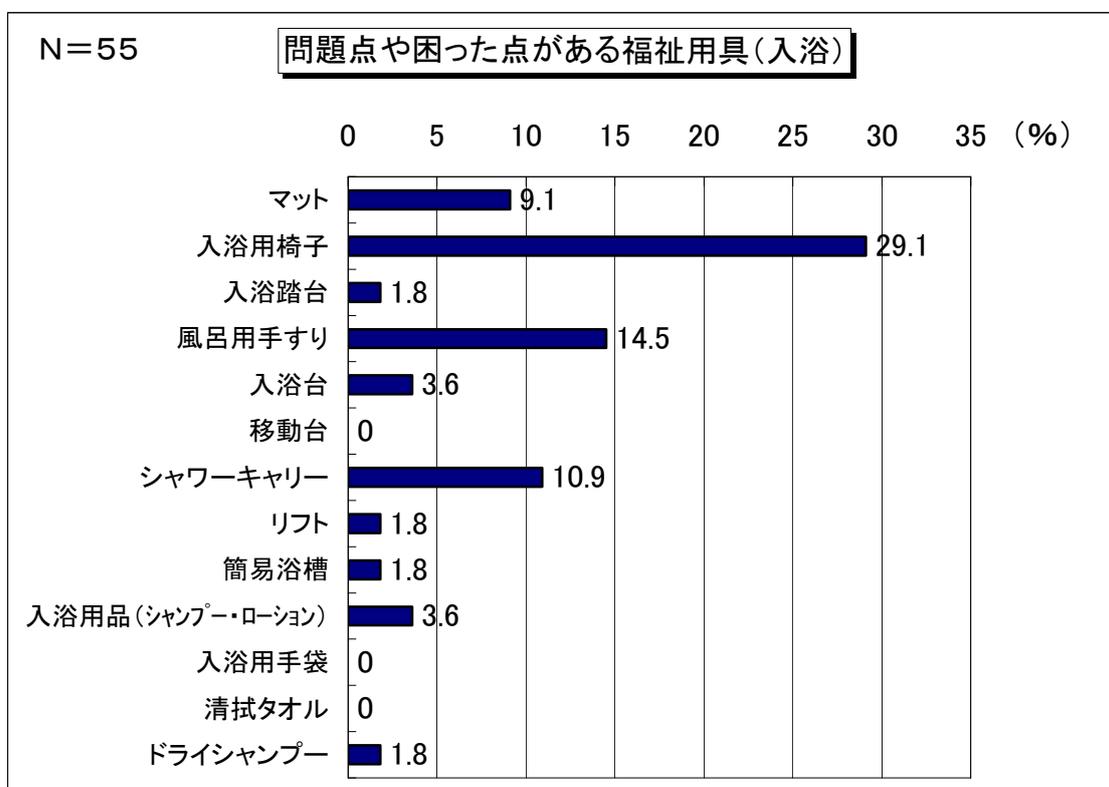
・「健康」

一番回答の多かったのは、スプーンで20%、次いで血圧計の14.5%。吸い飲み器、爪切り、くつ下は12.7%でした。



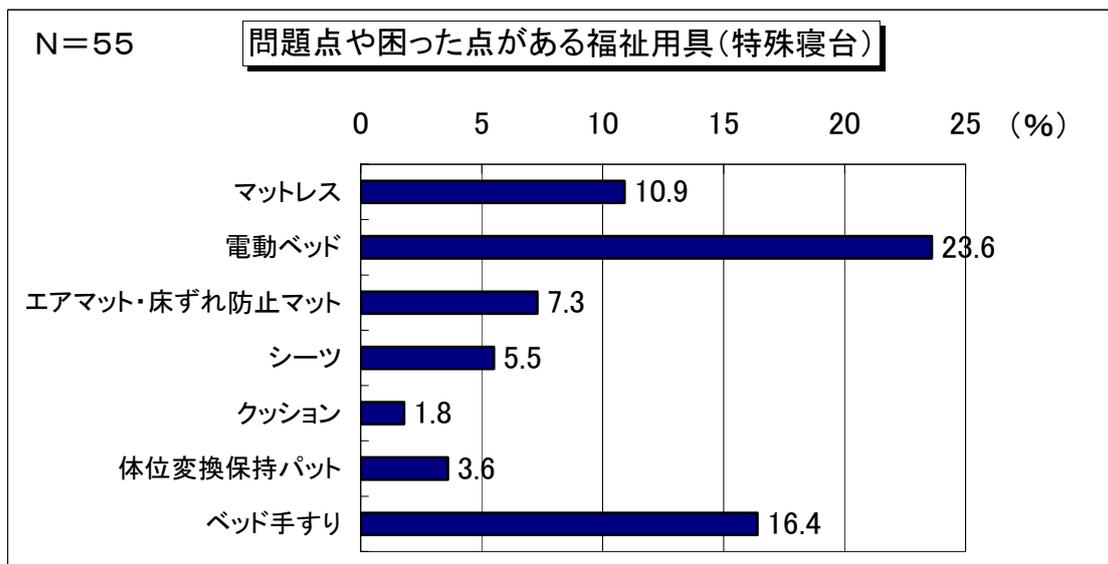
・「入浴」

入浴関連では、入浴用椅子が最も多く29.1%。次いで風呂用手すりの14.5%となっています。



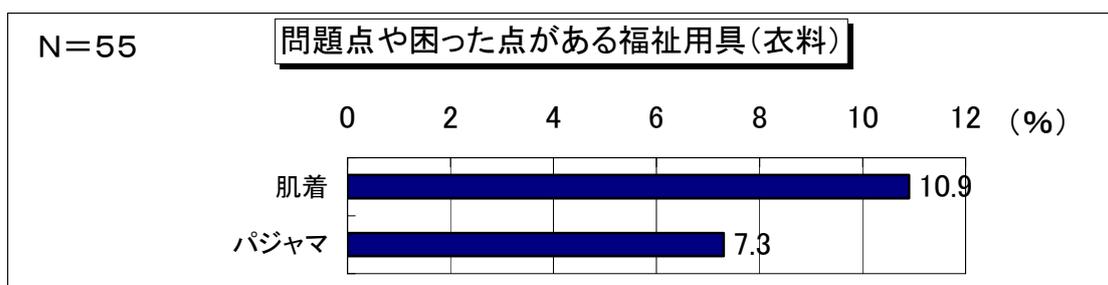
・「特殊寝台」

特殊寝台は「電動ベッド」が23.6%と一番多く、次いで、ベッド手すり16.4%となっています。その他マットレス10.9%、エアマット・床ずれ防止マット等のマット類の利用に問題点が多く見られます。



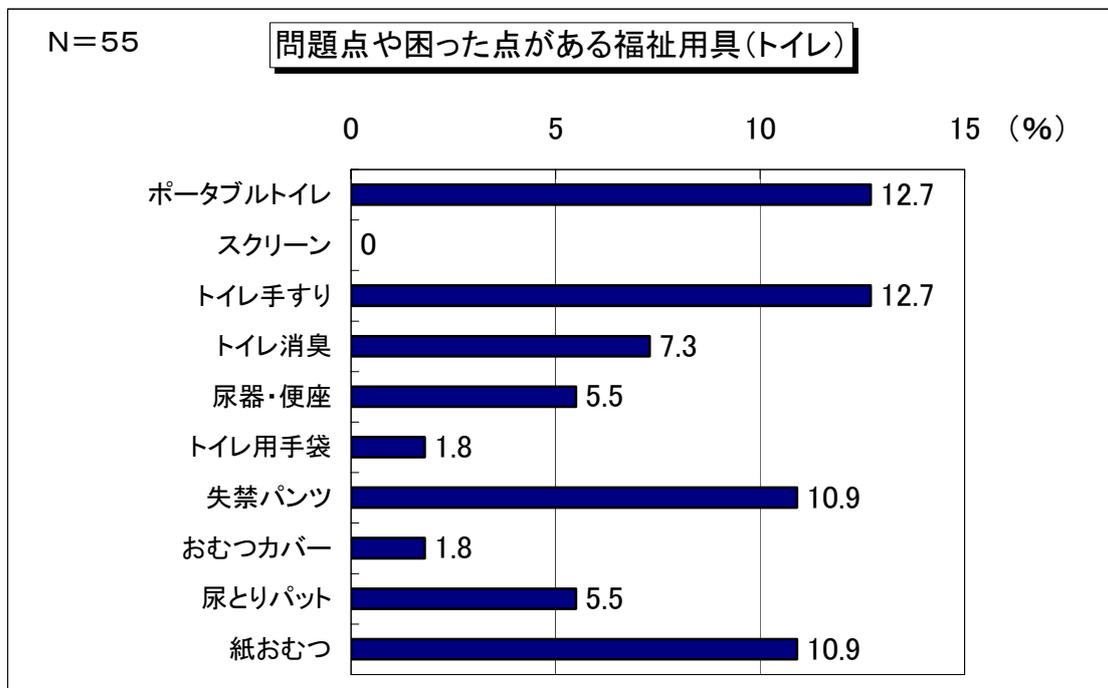
・「衣料品」

衣料品については「肌着」が10.9%、「パジャマ」が7.3%とあまり問題点としては多くありません。



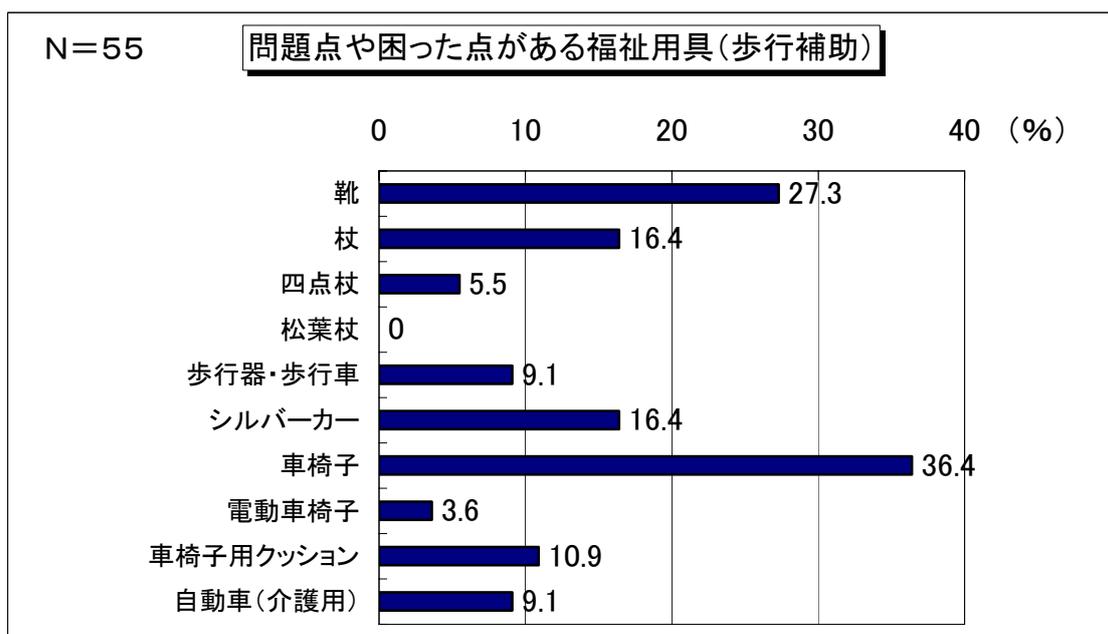
・「トイレ用品」

トイレ関連ではポータブルトイレ、トイレ用手すりが12.7%。失禁パンツ、紙おむつが10.9%。



・「歩行補助用具」

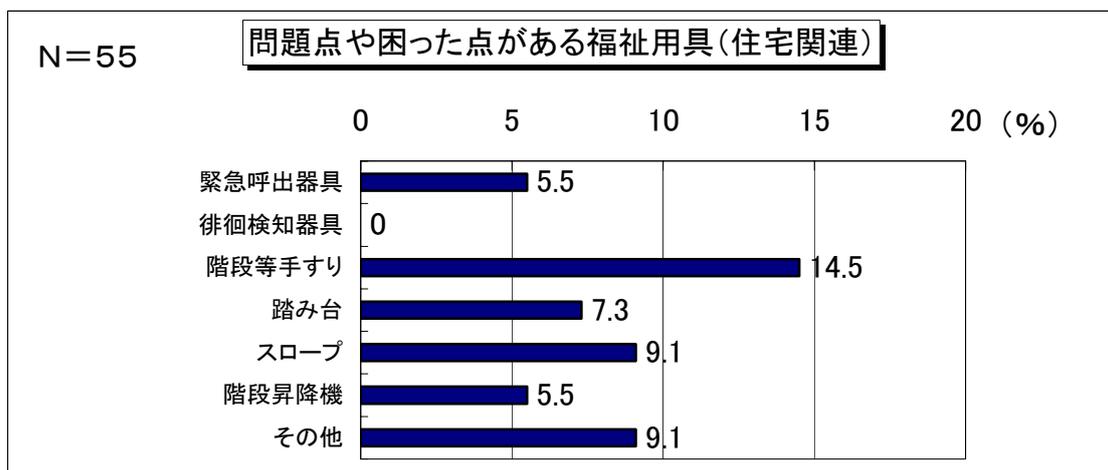
歩行補助用具では「車椅子」が36.4%と一番多く、次いでくつ27.3%、杖、シルバーカーの16.4%の順になっています。



・「住宅関連」

住宅関係では「階段等手すり」が14.5%、「スロープ」が9.1%となっています。

一方、「徘徊検知用具」は0%、「緊急呼出用具」は5.5%と比較的低い回答になっています。



③困った点のある福祉用具の利用頻度

福祉用具の利用頻度について、頻度が高いもの5つを順番にあげてもらったところ、次のような結果になりました。

●困った福祉用具のうち使用頻度の高いもの

項目	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
回答総数 (福祉用具数)	16	71	20	43	78	35
回答者数	8	46	28	24	31	14
困った福祉器具 のうち使用頻度 の高いもの	2.0	1.5	0.7	1.8	2.5	2.5

要介護4、5の方は困った用具のうち2.5個(用具)が、使用頻度が高い結果となっています。要介護4、5の方は困った福祉用具の使用頻度が高く、一方、要介護2の方は困った福祉用具の頻度が低いという結果となりました。要介護4、5の方がよく利用される用具の改善や開発が望まれているといえる結果となっています。

●困った用具のうち、使用頻度の高いもの（介護度別）

※紙面の都合上、少数回答は除きます。

要支援	
階段等手すり	2
電動ベッド	2

要介護1	
杖	8
靴	7
シルバーカー	6
歩行器・歩行車	6
トイレ手すり	5
入浴用椅子	5

要介護2	
靴	3
シルバーカー	2
車椅子	2

要介護3	
車椅子	6
電動ベッド	5
ポータブルトイレ	4
入浴用椅子	4
靴	3

要介護4	
車椅子	12
電動ベッド	9
尿とりパット	6
スプーン	5
ポータブルトイレ	5
紙おむつ	5
エアマット	3
シャワーキャリー	3
スロープ	3
靴	3
体位変換保持パット	3

要介護5	
車椅子	5
紙おむつ	4
車椅子用クッション	3
電動ベッド	3

困った福祉用具のうち、介護度別の具体的な用具は上記のとおりです。

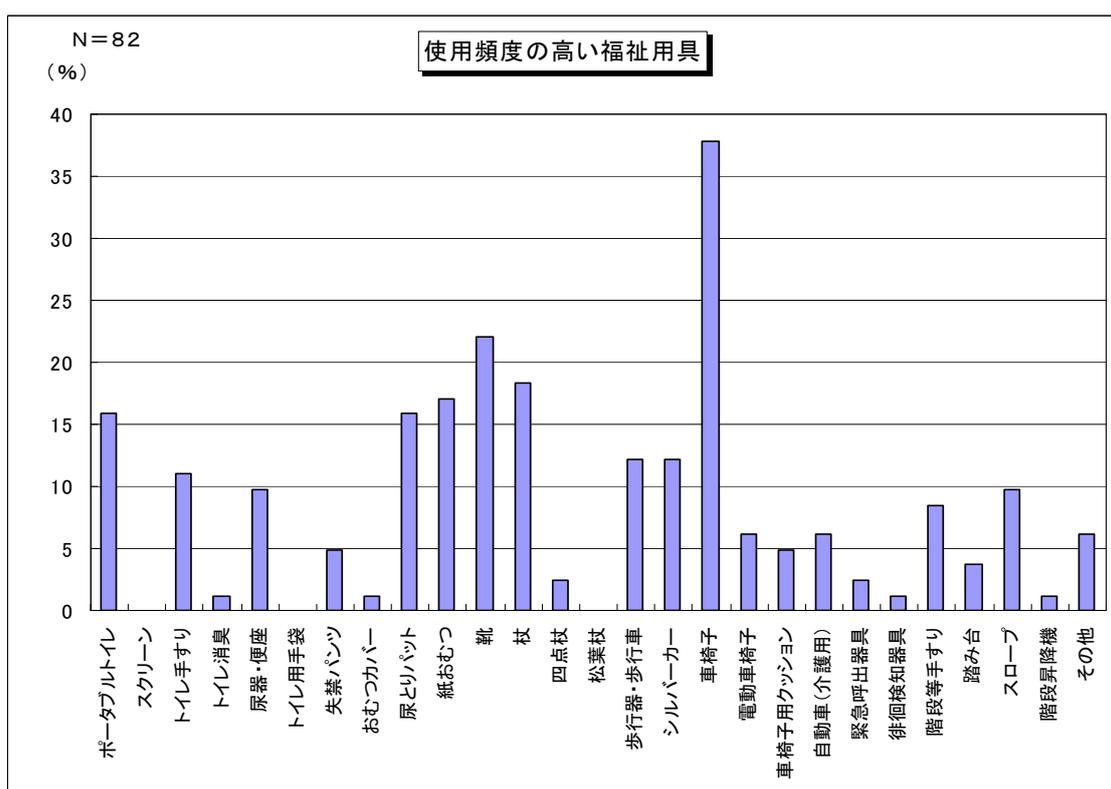
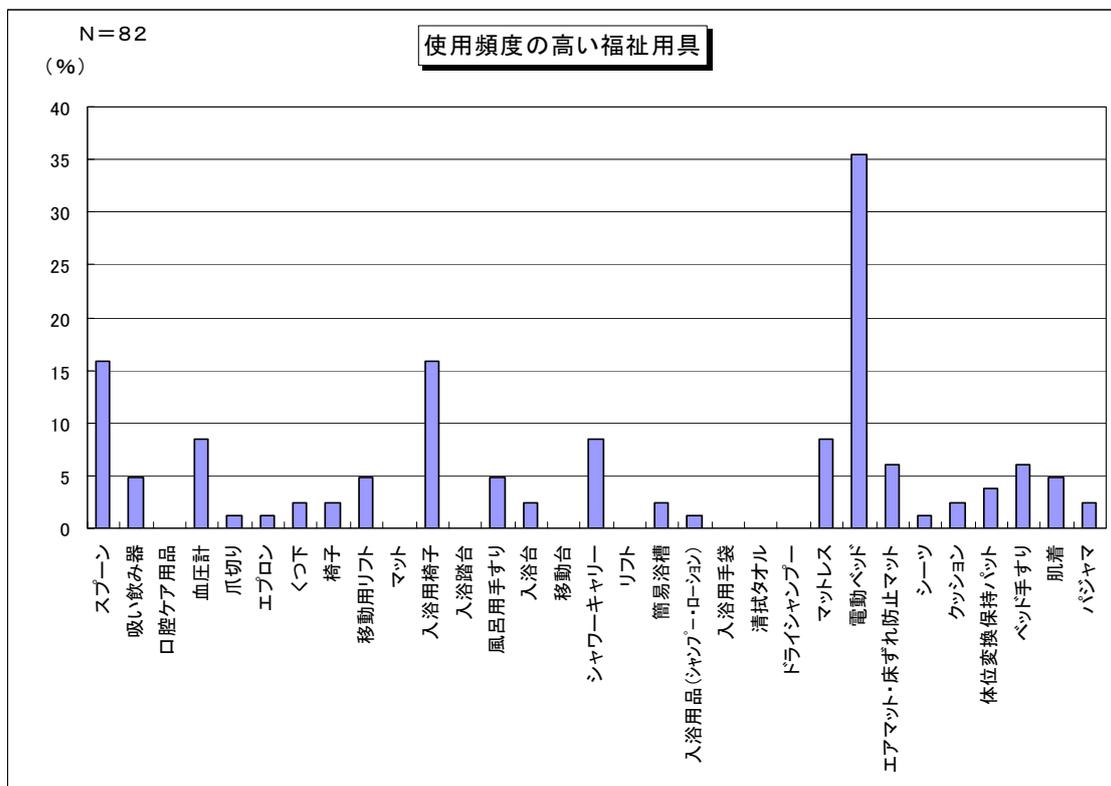
前項の質問（困った器具のうちで、利用頻度が高い福祉器具）から、特に改善や開発が望まれると考えられる要支援、要介護4、要介護5について見てみると、要支援では、入浴用椅子を除く、5製品は移動に関するものでした。移動に関する福祉用具は利用状況も高く、改善・開発がそのままニーズの充足につながると考えられます。

要介護4では、移動に関する福祉用具に加え、トイレ、入浴、起き上がりに関するものも回答されました。食事に関する福祉用具の利用度が相対的に高い傾向にありましたが、スプーンを回答されたのも要介護4の方が多くなりました。

要介護5では、起き上がりの特徴が見られましたが、電動ベッドの回答はあった

ものの、これは他の介護度でも回答があり、相関があるとは言えません。

グラフでみると、「車椅子」が37.8%、「電動ベッド」が35.4%、「くつ」が22%、「杖」が18.3%と比較的高い利用頻度にあります。



●自由回答からみる福祉用具の問題点の分類(介護度別)

項目	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
安全性	3	4				7
価格	1		2	1		4
サイズ	3			1		4
重量	1					1
種類	1	3	2	1	3	10
操作性	2	1	1	3		7
保守性		1	1			2
快適性		1			1	2
持続性		1		1	1	3
信頼性		1				1
設置・運搬		1	1	1		3
デザイン		1				1
介助				4		4
機能				2	1	3
自立				3		3
衛生					1	1
試用					1	1
	11	14	7	17	8	57

(分類した名称の内容)

種 類：利用者の状況に応じた種類 操作性：ボタンが小さい、小回りができないなど
 保守性：掃除がしにくいなど 快適性：冷たい・熱いなど 持続性：電池が切れるなど
 信頼性：数値が適正でないなど 介助：介助しにくいなど 機能：〇〇できないなど
 自立：本人ができないなど 試用：お試しがらない

全体的に見ると、安全面、操作性、種類が多い結果となりました。介護度が重くなると介助面や機能面の問題点が指摘される傾向にありました。また介護度が軽いほど安全性やサイズについての問題点が多く見られました。とくに種類についての問題点が多いことに象徴されるように、製品ごとのバリエーションの強化や、本人の状況に応じた適正な製品の提供が必要と推測されます。

●自由回答からみる福祉用具の問題点の分類(製品別)

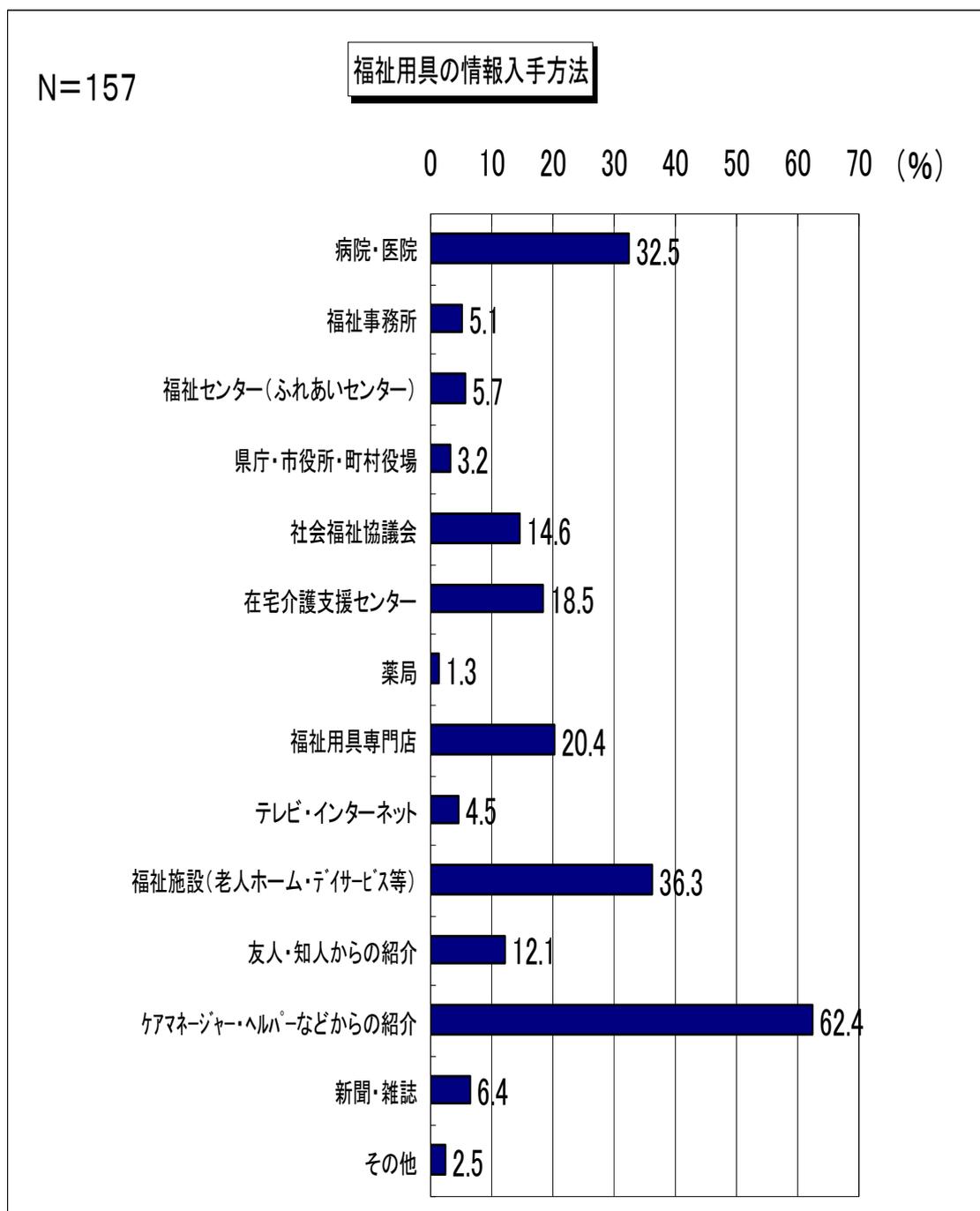
移動用リフト	機能	操作			
エアマット・床ずれ防止マット	快適	操作			
エプロン	デザイン				
階段昇降機	価格				
紙おむつ	サイズ				
靴	安全性	サイズ	種類		
くつ下	安全性	種類			
車椅子	安全性	機能	設置・運搬	操作	
車椅子用クッション	衛生	機能			
血圧計	信頼				
シーツ	安全性				
失禁パンツ	自立				
自動車(介護用)	価格				
シャワーキャリー	介助				
シルバーカー	持続	種類	操作		
寝台手すり	種類				
吸い飲み器	保守				
スプーン	試用				
体位変換保持パット	介助				
杖	持続	重量	自立		
手すり	種類				
電動ベッド	安全性	介助	価格	サイズ	種類
トイレ手すり	操作				
尿器・便座	保守				
尿とりパット	自立				
肌着	種類				
ポータブルトイレ	保守				
歩行器	安全性	サイズ			
マットレス	持続	種類			
四点杖	快適				

今回のアンケートにおいて開発・改善すべき点(分類)を列挙しました。電動ベッドや車椅子のように複数分類の問題点の解消が望まれるものもありますが、多くの製品は、その問題点の分類は明確となっています。

(4) 福祉用具の情報入手先

福祉用具の情報入手先は、一番身近なケアマネージャー・ヘルパーなどからの紹介が62.4%も占めており、次いで病院の32.5%となっています。

逆に入手先で回答数が少なかったのは、福祉事務所、福祉センター、役所関係、など、出向かなければならないところは3～5%と低くなっています。



●介護度別

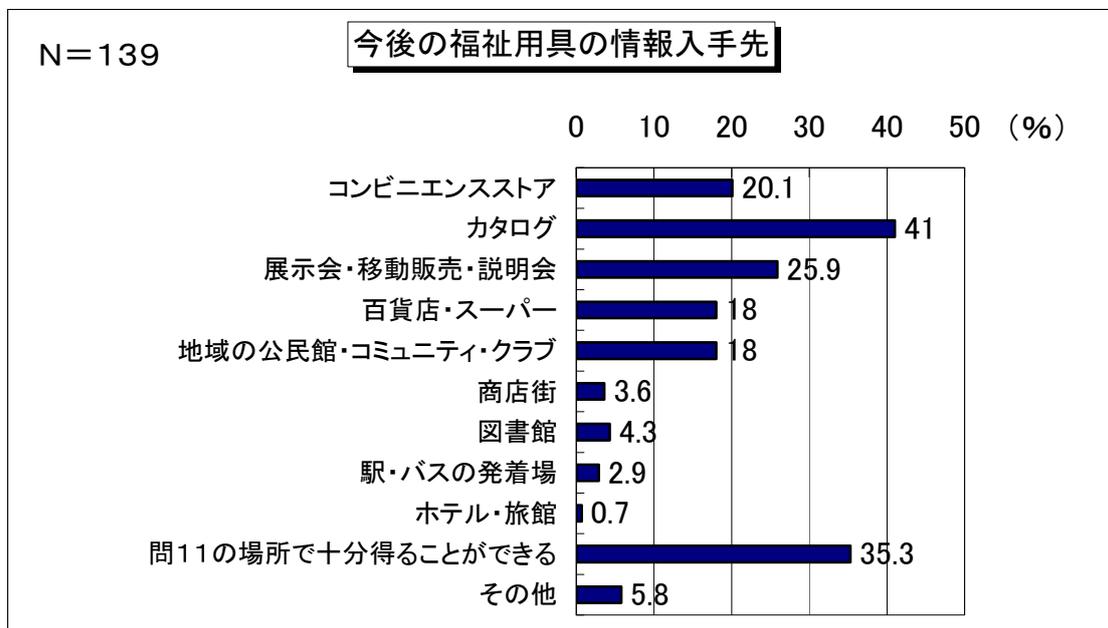
項目	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
サンプル数	8	46	28	24	31	14
病院・医院	1	12	7	10	13	5
福祉事務所	-	1	2	-	2	2
福祉センター(ふれあいセンター)	-	1	3	-	1	2
県庁・市役所・町村役場	-	1	1	-	2	1
社会福祉協議会	2	5	4	4	8	-
在宅介護支援センター	1	8	4	3	7	5
薬局	-	1	-	-	1	-
福祉用具専門店	-	4	4	5	12	6
テレビ・インターネット	1	2	1	1	-	1
福祉施設(老人ホーム・デイサービス等)	2	17	7	12	9	6
友人・知人からの紹介	1	4	4	1	2	4
ケアマネージャー・ヘルパーなどからの紹介	3	31	20	12	22	7
新聞・雑誌	2	1	1	2	3	1

介護度別にみても、ケアマネージャー、ヘルパーなどからの紹介が多くみられます。続いて福祉施設、病院・医院からの回答が多いのも同様の傾向となっています。

入手頻度の高い場所や職種からいかに適切な情報を得ることができるかが、本人・家族にとって福祉用具を有効に活用できる一つの要因であると考えられます。

(5) 福祉用具の今後の情報入手希望先

今後、福祉用具の情報入手の希望先は、カタログの41%。次いで今までの情報入手先でよいという回答が35.3%と比較的多い回答となっています。



また、介護度別にみると次のようになっています。

項目	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
合計	7	38	26	19	28	14
コンビニエンスストア	2	4	3	4	9	4
カタログ	3	15	13	12	4	6
展示会・移動販売・説明会	-	9	6	7	8	4
百貨店・スーパー	1	5	2	6	3	5
地域の公民館・コミュニティ・クラブ	1	6	5	3	5	4
商店街	-	-	1	1	1	2
図書館	-	1	1	-	2	2
駅・バスの発着場	-	1	1	-	2	-
ホテル・旅館	-	-	1	-	-	-
問11の場所で十分得ることができる	3	13	12	3	12	4
現状の満足度	42.9%	34.2%	46.2%	15.8%	42.9%	28.6%

福祉用具に関する情報は、用具や種類が増加するにつれ膨大なものとなっています。また専門的であり、すぐに理解できるものばかりとは言えません。現状の情報の入手先で十分と考えられているのは、どの介護度の方を見ても50%以下という結果となっています。今後多様な方向からの情報発信が望まれます。

4. 今後の福祉用具開発についての提言

(1) 提言にあたって

今までのアンケート結果の分析と自由回答による問題点や困った点の抽出から用具ごとの様子を見ていくこととします。まず今までのアンケート結果の分析から用具ごと、本人・家族および支援者ごとの、利用度、困った割合、利用頻度（重要度）を見ていきます。ここで今回調査した57品目のなかでの、対象福祉用具の相対的な順位付け（開発の優先度）を確認したのち、自由回答から具体的な開発項目を分析します。また今後、支援者が求める福祉用具の方向性を確認し、対象福祉用具のあるべき方向性を提案します。

(2) 個別用具についての提言

①車椅子

ア. 「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

項目	全体値 (%)	全体順位	最も顕著な介護度	その割合 (%)
1. 利用場面（室外）	72.6	1	要介護1	76.1
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、車椅子を選択	36.4	1	—	—
3. 2を回答された方のうち、車椅子の利用度が高いと選択	37.8	1	要介護4	—

支援者

項目	全体値 (%)	最も回答率が高かった職場	最も回答率が高かった職業	最も回答率が高かった年数
車椅子を利用している	91.9	—	—	—
車椅子の利用頻度が高い	48.7	居宅介護支援	介護（在宅）	15年以上
車椅子で困った	11.8	—	—	—

総合的に見て、最も重要な福祉用具であるといえます。本人・家族、支援者それぞれにおいても高い結果となりました。また困った福祉用具として回答率が高くなっています。傾向としては重い介護度の方からの回答が多くなっていますが、比較的軽い方でもその重要度は高くなっています。

イ.「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

本人・家族

項目	具体的内容
機能面	グリップが動き、力が入らない。 右麻痺でひじがすぐに落ちるので、ひじ置き役をこなさなかった。 腰が痛く、長時間座っていると身体がずってきて疲れる。
種類面	車椅子の高さが低い。ベッドからの移動時に困る。 毎日使用する車椅子と椅子が、その日の体調により有効に使用しにくい場合がある。 リクライニング式車椅子で、背を上げて足をおろした時に、本人の足が床につくものがなかった。
安全性	足を乗せる所がゆるんで困る。 車椅子が小型で、小回りには便利であるが、長く座ると滑り落ちそうになる。
設置・運搬	持ち運びが大変だった。
操作性	車椅子の操作が難しい。

支援者

項目	具体的内容
安全性	フットレストが下がったり、曲がったりしてしまう事があり、注意していなかったら足が床に落ちたまま、動かしてしまうことがある。 ブレーキの使用頻度が多いため、効きが悪い。 足置の間が広く、下肢機能の低下した利用者の足が移動中に落ちる
衛生	タイヤを持って動かすので、衛生的に悪い。
操作性	ストッパーを掛けられない人がいて困る。 麻痺の方は片手で動かすので、直進しないことが多い。 説明書を読んでも操作できず、使い勝手が悪かった。
快適性	リクライニング式の車椅子は、機能が多いのは良いが、操作がしづらく、シートの素材が夏は暑く、汗だくだった。 長時間座っていると疲れる。
価格	色々種類はあるが、良いものは値段が高い。
機能	体位が保持できず、体が前にずれてしまったり、抑制帯を使用すればよいかと思ったり。 姿勢を保持できない方がどうしても左右に体が倒れてしまい、良い体制を確保できない。 片麻痺の人が座位が保たれるもの。 左麻痺のため、ストッパーが動かしにくくて困る。 マットレスが落ちることがある。
設置運搬	軽くて持ち運びが楽なものが欲しい。

重量	重い。(複数の回答あり)
サイズ	本人に合った車椅子でない(大きいなど)
種類	身長はあまり高くないが、体重の重い人はその人の体型に合った車椅子(高さ、座幅等)がない。 本人の体型に合ったものを調整できたら良いと思う。座面が下がるので腰痛を訴える方がある。 体、障害に合うものがない。
保守	車椅子の掃除がやりにくい。備品が壊れて直せなかった。

改善点を分類別に見ると、機能、種類、安全性、設置運搬、操作性について、本人・家族と支援者双方からの回答がありました。また具体的な部品の改善点が指摘されています。

ウ. 車椅子への要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
18.9%	23.1%	30.6%	36.1%	25.9%	9.7%

利用負担を除く、すべての分類で高い回答を示しました。特に種類、重さです。特に種類は、困った点においても多く回答されています。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

- 福祉用具の中で最も利用され、かつ困っている、開発や改善が最も望まれているものです。詳細にどのような点を克服するための開発や、改善が必要かといえば、
- (1)部品面でフットレストの強度やブレーキの信頼性については、早期の解決が望まれます。具体的な部品や附属用具についての回答があったのが特徴的です。
 - (2)種類では本人・家族、支援者双方からの意見があり、高さ、幅、ないし身体状況により合っていない結果となりました。車椅子の高さ、縦・横幅のバリエーションの豊富さ、もしくは高さや幅の調整ができる伸縮機能のある製品の開発が望まれているものと考えられます。これは要望面でも同様の結果となっています。
 - (3)機能面では、グリップが動く、ひじがすぐ落ちるという問題がありました。具体的な指摘事項でもあり、改善の余地が大きいといえます。
 - (4)安全性についても、双方からの回答があり、フットレストやブレーキについては部品面のとおりです。
 - (5)設置運搬も双方から回答があり、主に要望は軽量化です。ただし適度の安定性は必要ですので、軽量かつ安定的であることが求められます。
 - (6)操作性についても双方からの回答がありました。ストッパーのかけ方や、方向の変え方など、介護職にとっては常識であっても、初めて使う人にとっては難しいようです。また回答にもあるとおり、片手あるいは、力が不十分であって

も、利用できるような補助具があればより操作しやすいかもしれません。
 (7)快適性については、長時間座ると疲れるとの回答がありました。これは通常椅子に座っていても同様です。快適な椅子を参考にするには意義あると思われます。

今後の開発の方向性については、より本人ごとのニーズに対応できるとともに、デザイン面の配慮も重要です。介護においては、車椅子は重要な移動手段です。「福祉用具だから仕方ない」から、健常者が車や自転車に求めるようなファッション性も求められています。

②電動ベッド

ア.「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

項目	全体値 (%)	全体順位	最も顕著な介護度	その割合 (%)
1. 利用場面 (起き上がり)	31.8	5	要介護5	50.0
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、電動ベッドを選択	23.6	4	—	—
3. 2を回答された方のうち、電動ベッドの利用度が高いと選択	35.4	2	要介護4	—

支援者

項目	全体値 (%)	最も回答率が高かった職場	最も回答率が高かった職業	最も回答率が高かった年数
電動ベッドを利用している	83.6	—	—	—
電動ベッドの利用頻度が高い	53.7	居宅介護支援	ケアマネ	10～15年
電動ベッドで困った	9.7	—	—	—

車椅子と並び最も利用されている福祉用具といえます。特に重い介護度の方からの回答が多い傾向にあり、訪問介護、特別養護老人ホームにおいて顕著となることから、車椅子に比べると利用される方の幅は狭いと思われます。困った福祉用具のうち電動ベッドを回答された方が35.4%と車椅子に次いで高い結果であり、開発が強く望まれている用具であるといえます。

イ.「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

本人・家族

項目	具体的内容
介助	移動の時、横に向けて固定しにくい。 身体がずれていく。
種類面	上半身に力があるので、ベッド手すりを乗り越えることがある。高い手すりが欲しい。
価格	値段が高い。
安全性	ベッドの横の部分に、降りる時に足が当たる。
サイズ	ベッドの柵の位置が自分に合わない。

支援者

項目	具体的内容
介助	在宅で部屋が狭い所に電動ベッドとポータブルを置いていると、支援者として介助がしにくい。
快適性	本人の気に入った敷き布団が合わない。マットの上に布団をしきたがる。
価格	高額なので、購入に悩んだ。
機能	背上げをした時、下にずれてしまう。足上げを先にしても、どうしてもずれるので、手間が掛かる。 停電した時は動かない。 動かなくなった時困る。 電動部分の故障が多い。部品等の規格が統一されておらず、各社それぞれに違い不都合が多い。
種類	体の小さい方だと体がずった状態になる。 幅が広い物を選択すると、オーバーテーブルが合うものがない。 ベッドと床の間が狭く、キャスター付きのオーバーテーブルを差し込むことができなかった。 体の大きい方に合うベッドがあまりなかった。 ベッドのクッションが柔らかいので、もう少し固めの方が良いと言われた。 寝返りすると幅が狭い。
設置運搬	重すぎて設置後の移動が困難。(3) 本人は掃除がしにくい。
操作性	操作盤の文字が見づらく、本人が操作しがたい。 動作が遅い。
保守性	老朽化した時の処理が大変。 構造が複雑なため、ギャジリモコンが不良になると修理を頼まないといけない。

分類別では、介助、種類、価格において双方が回答しています。また電動ベッドで特徴的なことは、マット、テーブル、クッションといった附属製品への改善提案が見られたことです。また停電時の対応や重量面、保守性についてと広く改善が望まれる結果となっています。

ウ. 電動ベッドへの要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
2. 7%	2. 6%	16. 7%	2. 8%	11. 1%	12. 9%

要望について見ると、重さ、利用負担、大きさへの期待が大きくなっています。福祉用具の中でも大きく、重い部類に入るものなので、制約はあるものの利用のしやすさへの期待が伺えます。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

電動ベッドで他の用具よりも特徴的なものとして、附属用具への改善提案が良く見られました。柵、手すり、マット、テーブル、クッションなどです。附属製品の使い勝手の良さについて検討を行う必要があります。これは電動ベッドの満足度が本体だけでなく、附属用具により大きく左右するのではないかと推測できます。詳細にどのような点を克服するための開発や、改善が必要かといえは、

- (1)介助面では、本人・家族、支援者双方からの回答がありました。大きさからと機能面からのものでありました。
- (2)種類も双方からの回答があり、本体の大きさや幅についてのものと、附属用具に関するものでありました。オーバーテーブルと手すりについては具体的な改善提案が提示されています。
- (3)価格面では、1台数十万であり、納得できる意見です。やむを得ない部分は大きいと考えられますが、機能面の見直しや品質や機能の購入者への納得いく説明により、高いという感覚は和らげるかもしれません。
- (4)操作性については、リモコン部分に改良の余地があります。見やすく、押しやすいボタンなどUD化を検討する必要があります。

また保守性についても、構造が複雑で、重いことから困難が推測できます。ほこりが入らない構造や、また掃除しやすい道具などがあってもいいかもしれません。

③ポータブルトイレ（PT）

ア.「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

項目	全体値 (%)	全体 順位	最も顕著な 介護度	その割合 (%)
1. 利用場面（トイレ）	42.0	4	要介護3	50.8
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、PTを選択	12.7	12	—	—
3. 2を回答された方のうち、PTの利用度が高いと選択	15.9	6	要介護4	—

支援者

項目	全体値 (%)	最も回答率が高 かった職場	最も回答率が高 かった職業	最も回答率が高 かった年数
PTを利用している	82.2	—	—	—
PTの利用頻度が高い	32.7	居宅介護支援	ケアマネ	15年以上
PTで困った	7.2	—	—	—

困った用具では12位ですが、これは利用される対象が限定される傾向にあることが要因の一つであると思われます。概ね介護度の重い人が利用する傾向にあります。支援者では、後述の尿取りパット、紙おむつという排泄用具の中で最も困った割合が高くなっています。

イ.「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

本人・家族

項目	具体的内容
保守性	掃除がしにくい。

支援者

項目	具体的内容
安全性	安定が悪い。 重すぎると動かしにくく、軽すぎると手すりがついておらず、座る時に動いて危ない。 軽い手すりのないものは転倒の危険がある。
介助	体調が悪く、後始末ができなかった。 在宅で部屋が狭い所に電動ベッドとポータブルを置いていると、支援者として介助がしにくい。
機能	手すりがないから使いにくい。 低いので、手すり併用がよい。
持続性	ポータブルトイレのフタがすぐに壊れて外れてしまう。
種類	小柄な方だったので、ポータブルトイレの方が大きく、ベッドからの移動が大変だった。

設置運搬	大きすぎて設置場所を選ぶ。せっかく購入しても本人が利用してくれない。 部屋が狭い時、置き場所がないことがある。 部屋に置くには大きさが合わなかったり、重くて持ち運びしにくかったりした。 家具調の物は重たく、丸洗いしにくい。
保守	尿がもれて、バケツを支えている板が腐り、交換できずに新しい物を購入した。 便器の汚れが落ちにくい。長年使っているとこびりついて取れなくなる。
その他	介護施設ではないので、他の入所者の援助不可だった。

支援者からはPTの大きさについて多くの事項が指摘されました。便器を小さくすることは困難ですが、ニーズにあった大きさを提案することは可能でしょう。安全性についても適切な重量が難しいことが指摘されています。

ウ. ポータブルトイレへの要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
13.5%	0%	16.7%	2.8%	7.4%	0%

要望では重さ、デザインについての要望が多い結果となっています。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

利用していて困った、かつ頻度が高い傾向にある用具にもかかわらず、本人・家族からの回答は少ししかありませんでした。排泄という本能的なものであることから、できればよいと思われるかもしれません。詳細にどのような点を克服するための開発や、改善が必要かといえは、

- (1)安全性では、安定性の高低による転倒の恐れを指摘しています。重量と手すりのトレードオフの関係になっていることがわかります。
- (2)機能面でも、手すりが問題になっています。おそらく、トイレ本体と手すりのバランスを利用者ごとや設置環境で調整できるような仕組み、たとえば、手すりの後付、簡易手すりなどが必要だと考えられます。
- (3)持続性では、ふたがこわれやすいという回答がありました。これが少数回答なのか、一般的なものであるかどうかは、判断しかねますが、こわれやすいのなら、改善すべきです。
- (4)設置運搬では、重さ、大きさです。デザインを重視し、安定性を重視するとどうしても避けられない問題ではあります。本人や設置環境にもっともふさわしいものが選べるのが重要ではないかと考えます。

唯一双方の回答があった保守面では、汚れに対する処置です。掃除のしやすさは開発する上で重要な視点です。

重さや大きさをどのように克服し、かつ安定性を重視するか、機動性を重視する

かが課題であるといえるでしょう。本人の身体状況や、設置環境により選べる必要があるでしょう。重さや高さを調節できるようなユニット方式も検討されてもよいのではないのでしょうか。

また将来的にはデザインについても多くの期待が寄せられています。昨今のトイレ事情を考えると相当快適になっています。これは介護においても例外ではないといえるでしょう。

④尿取りパット

ア.「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

項目	全体値 (%)	全体順位	最も顕著な介護度	その割合 (%)
1. 利用場面 (トイレ)	42.0	4	要介護3	58.3
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、尿取りを選択	5.5	29	—	—
3. 2を回答された方のうち、尿取りの利用度が高いと選択	15.9	6	要介護4	—

支援者

項目	全体値 (%)	最も回答率が高かった職場	最も回答率が高かった職業	最も回答率が高かった年数
尿取りを利用している	90.1	—	—	—
尿取りの利用頻度が高い	45.6	デイサービス	介護 (施設)	1年未満
尿取りで困った	6.7	—	—	—

本人・家族では、困ったと回答した割合は低い結果となりました。ただし困ったと回答された方のうち利用頻度が高いと回答された方は多く、困ったとそうでない人の温度差が強い用具であると推測できます。支援者では、高い利用度を示しており、重要度の高い用具であるといえます。

また最も利用頻度が高い職場がデイサービスとなっており、この職場を意識した開発が望まれています。

イ.「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

本人・家族

項目	具体的内容
自立	自分できちんとパッドをつけてパンツをはけない。

本人・家族からの回答は、自立に関することのみとなっています。

支援者

項目	具体的内容
快適性	かぶれる。

説明	トイレに流して詰まった。水に溶けるものと溶けないものの区別が付かない。 利用者がトイレへ流そうとし、トイレが詰まった。
種類	長さがもう少し長いものがあればいいと思う。 尿量の多い方には、吸収力が足りていないものが多い。 お尻の小さい方の場合、ずれることが多い。 リウマチで手が不自由でも、はがれず、簡単に操作できるものが欲しい（大きさ、シール）。
機能	尿もれがある（カバーが甘い） 尿洩れがあり、ふとんが濡れる。色々試してみたが駄目で困った。 もれる。テープを剥がすのを忘れる。
価格	マジックテープだと値段も高くなる。
衛生	歩行される人は、パットがずれて衣類が汚染する。
試用	どんな商品か見本がなく、一度は使ってみなければいけない。
サイズ	大きくて、付け心地が悪そうだった。適当な大きさがなく、半分に切って使った。 サイズがなかなか合わない。

本人・家族では自立に関することのみになりました。支援者では、多様な分類での回答が見られましたが、尿取りパットで特徴的なことは「試用」に関する指摘があったことです。

ウ. 尿取りパットへの要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
0%	5.1%	0%	0%	11.1%	29.0%

将来的には利用負担の軽減への期待が多くなりました。尿漏れによる不快感や衛生面の解消が継続的に望まれていると考えられます。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

尿取りパットについては利用頻度は高いのですが、特に本人からは困ったと回答される割合が少なかったようです。車椅子などの用具に比べ、基本機能が重視されることと、ポータブルトイレと同様に排泄という行為からと思われます。詳細にどのような点を克服するための開発や、改善が必要かといえは、

- (1)説明では、水に溶ける、溶けないの区別がつかない（説明不足）が指摘されています。
- (2)種類では、長さ、吸収力、大きさ、シールの強度が上げられています。本人の身体状況ごとの用具が求められています。
- (3)機能では、尿漏れです。これはこの用具の根本に関わる問題であるといえます。上記の課題の一つの要因としては、回答にもあった試用できないことが考えられます。試してみて、本人に適切なものを選ぶことによって、改善できる余地

は大きいと考えられます。

(4)また用具のバリエーションについては、検討の余地が大きいでしょう。〇〇向けといったある程度ターゲットを絞った用具の提供ができればよいのではないのでしょうか。

⑤紙おむつ

ア.「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

項目	全体値 (%)	全体順位	最も顕著な介護度	その割合 (%)
1. 利用場面 (トイレ)	42.0	4	要介護3	58.3
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、紙おむつを選択	10.9	16	—	—
3. 2を回答された方のうち、紙おむつの利用度が高いと選択	17.1	5	要介護5	—

支援者

項目	全体値 (%)	最も回答率が高かった職場	最も回答率が高かった職業	最も回答率が高かった年数
紙おむつを利用している	80.9	—	—	—
紙おむつの利用頻度が高い	34.0	特別養護老人	介護 (施設)	1年未満
紙おむつで困った	4.1	—	—	—

本人・家族では、困ったと回答された方、利用頻度ともに中間的な結果となっています。特に重い介護度の方が利用される傾向にあります。ポータブルトイレ、尿取りパットよりもそのような傾向が強くてきています。

支援者側では、利用頻度について特別養護老人ホームからの回答率が多くありました。また勤続年数で見た場合、尿取りと同様、勤続年数1年未満の方からの回答率が高くなっています。

イ.「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

本人・家族

項目	具体的内容
サイズ	サイズが画一的 (Sにすれば小さい、Mだと大きいなど)。

支援者

項目	具体的内容
機能	もれる。テープを剥がすのを忘れる。 紙パンツ。片側がマジックテープであれば、はかせやすい。 うまく当てたつもりでも、本人が動くと、どうしても横漏れしてしまう。 どうしても漏れがあるので困る。

	横に向いて寝るため、横漏れがある。 夜用を使っても、ずれてもれる。
価格	マジックテープだと値段も高くなる。
種類	サイズと排尿量のバランスで、その方にピッタリするものが少ない。

本人・家族と支援者では一致する分類はありませんでした。支援者では「漏れ」に対する回答が多くありました。

ウ. 紙おむつへの要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
0%	12.8%	0%	8.3%	22.2%	22.6%

尿取りパットと同様に利用負担と大きさへの要望が多くなっています。ただし、利用負担を除き、尿取りパットよりも高い割合を示しました。要望面では紙おしめへの期待の方が大きいといえるかもしれません。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

尿取りと同様な傾向となりました。漏れに対しての改善が望まれます。形状をうまくはかせやすいようにする、テープを改良することも必要です。また将来的な期待も大きい用具であると考えられます。

⑥靴

ア. 「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

項目	全体値 (%)	全体順位	最も顕著な介護度	その割合 (%)
1. 利用場面 (室外)	72.6	1	要介護1	76.1
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、靴を選択	27.3	3	—	—
3. 2を回答された方のうち、靴の利用度が高いと選択	22.0	3	要介護1	—

支援者

項目	全体値 (%)	最も回答率が高かった職場	最も回答率が高かった職業	最も回答率が高かった年数
靴を利用している	84.9	—	—	—
靴の利用頻度が高い	13.6	ケアハウス	相談員	1年未満
靴で困った	4.1	—	—	—

本人・家族では、非常に重要かつ開発が望まれる用具の一つとなっています。特に低い介護度の方が利用頻度は高い傾向にありました。一方、支援者では、本人・家族ほど重要ではないと考えられているようです。

ケアハウス、相談員からの回答率が高い結果となっており、開発において参考にすべき職場や職業でしょう。

イ. 「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

本人・家族

項目	具体的内容
サイズ	自分に合った靴がなかなか見つからない。
価格	高い。
安全性	横に広がってしまい、歩いている時に脱げる。
種類	足が腫れると靴の中に足がおさまらない。

支援者

項目	具体的内容
デザイン	靴のデザイン、色があまり選べない。 サイズ、デザインが少ない。 足が大きい人、外反母趾の人、甲高の人、はきやすくお洒落なデザインが欲しい。
サイズ	靴のサイズが通常のサイズと多少異なっており、合わなかった。
自立	自分で履きやすく、脱げにくい靴で、他に何かいいものがあればよいと思った。
種類	たくさんの種類やサイズを置いている業者が少なく、なかなかその人にあったものを提供することができなかった。 本人のニーズに合ったサイズや形が見つけにくい。
機能	靴のマジックテープがソックスにつき、履きにくかったり、マジックテープに糸くずが付き、くっつきが悪くなったりすることがある。

デザイン・種類について双方からの回答がありました。介護用であっても、一般的な靴と同様な改善点も多いと考えられます

ウ. 靴への要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
45.9%	28.2%	2.8%	8.3%	7.4%	6.5%

デザインに関するものが圧倒的でした。またサイズ面への期待も大きさも確認できました。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

本人・家族にとっては排泄関係よりも困った、頻度ともに高い結果となりました。重要な福祉器具といえます。

また本人・家族と支援者では、課題の傾向が異なっています。種類・サイズについては共通ですが、デザイン面の回答は支援者となっています。これは、支援者が見たときに、「もっとおしゃれだったら」と思うからでしょう。

種類やサイズでは、本人に合っていないという結果になりました。

福祉用具の中でも特に靴は一般製品との境界が難しいといえるでしょう。デザインやサイズについては、介護用品という範疇のみではない開発姿勢が求められます。

しかし介護というきめ細かさや、親切さは求められることはいまでもありません。はきやすい・脱げにくい、脱ぎやすい、といった機能面の強化は引き続き求められます。

⑦杖

ア.「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

項目	全体値 (%)	全体順位	最も顕著な介護度	その割合 (%)
1. 利用場面 (室外)	72.6	1	要介護1	76.1
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、杖を選択	16.4	6	—	—
3. 2を回答された方のうち、杖の利用度が高いと選択	18.3	4	要介護1	—

支援者

項目	全体値 (%)	最も回答率が高かった職場	最も回答率が高かった職業	最も回答率が高かった年数
杖を利用している	89.5	—	—	—
杖の利用頻度が高い	25.2	ケアハウス	相談員	1年未満
杖で困った	2.6	—	—	—

本人・家族より支援者の方が、使用頻度ないし重要度が高いと考え、困った面では本人・家族の方が相対的に高い傾向にありました。ケアハウス、相談員の回答率が高く、開発において欠かせない存在です。

イ.「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

本人・家族

項目	具体的内容
重量	重すぎたり、軽かったり、手頃なものがなかなか見つからない。
持続	ゴムの部分がすぐちびる。もっと強いものを使ってもらえないか。
自立	杖だけで歩けない。

支援者

項目	具体的内容
操作性	最近の杖は、プッシュボタンを押して長さを調節するものが多く、力の強くない利用者にとっては、自分で長さ調節するのが困難。
保守性	杖の先のゴムの取り替えで、サイズが合わず困った。
快適性	杖をつく方の腕や肩が痛い。(持ち手?高さ?)

安全性	杖に頼りすぎるような場合の安全性の問題。
種類	使用場所に応じたものが何本も必要。

本人・家族と支援者では同一の分類での回答はありませんでした。

ウ. 杖への要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
5. 4%	7. 7%	5. 6%	0%	3. 7%	0%

要望については概ね低位水準となりました。現行の用具の満足度が伺えます。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

本人・家族と支援者では課題の抽出が異なる結果になりました。共通しているのは、ゴムの取替えについてだけです。要望についても特に顕著な傾向はありませんでした。

高さや長さについての指摘が見られました。やはり本人により適切なものは異なることから、種類の豊富さや、長さ調整のしやすさ、適切さが改善の方向性でしょう。

⑧入浴用椅子

ア. 「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

	全体値 (%)	全体順位	最も顕著な介護度	その割合 (%)
1. 利用場面 (入浴)	54. 1	3	要介護3	62. 5
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、入浴用椅子を選択	29. 1	2	—	—
3. 2を回答された方のうち、入浴用椅子の利用度が高いと選択	15. 9	6	要介護3	—

支援者

	全体値 (%)	最も回答率が高かった職場	最も回答率が高かった職業	最も回答率が高かった年数
入浴用椅子を利用している	88. 8	—	—	—
入浴用椅子の利用頻度が高い	23. 1	居宅介護支援	ケアマネ	10～15年
入浴用椅子で困った	3. 6	—	—	—

本人・家族にとって車椅子に次ぐ困った用具であり、利用頻度も高い用具です。しかしながら自由回答による回答がなかったのは、意外な結果となっています。ケアマネージャーからの回答率が高く、開発には欠かせない存在です。

イ. 「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

支援者

項目	具体的内容
設置運搬	大きすぎて設置場所を選ぶ。せっかく購入しても本人が利用してくれない。 椅子を使用しない時の置き場所に困った。(折りたたみできないため)
快適性	座面中央部にくぼみがあるため、座り心地が悪く、不安定。
安全性	安定性に欠ける。 手すりがあるものの方が安全だと思う。
種類	利用者の状態(体型や麻痺)に合わず、座位が保てない方がいた。
保守	折りたためるが、置き場に困る。壁に立てかけて保管していた。水垢が付きやすい。

支援者より安定性と用具の大きさについての指摘がありました。

ウ. 入浴用椅子への要望(%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
5.4%	2.6%	2.8%	2.8%	0%	0%

要望についてはあまり特徴的な傾向は見当たりませんでした。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

車椅子や電動ベッドを除けば困ったことが多く、かつ利用頻度の高い用具です。詳細にどのような点を克服するための開発や、改善が必要かといえば、

- (1)設置運搬では、用具の大きさによる設置場所の確保と、収納です。意見にもあるとおり、折りたたみや分解ができると便利でしょう。
- (2)快適性では、入浴という介護においてもっともリフレッシュできるひとときの用具として、座り心地は大切です。用具のくぼみの必要性の有無や改善を検討すべきです。
- (3)安全性は最も大切かつ基本です。浴室の状態ごとで安定性が確保できる仕組みが必要と考えられます。
- (4)種類については、やはり利用者の状況や体格に応じた用具が求められています。
- (5)保守については、折りたためるものの、収納しやすい状態でなかったことが指摘されました。また水垢が付きやすいという問題では、コーティング加工などの改善が望まれます。

今回のアンケートでは概ね困った用具、使用頻度の高い用具については自由回答が多かったのですが、入浴用椅子では、そうとはいえませんでした。ニーズが掴みにくい用具であるといえますが、それだけ開発する側からみれば、差別化ができる用具であるともいえます。

⑨エプロン

ア. 「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

項目	全体値 (%)	全体 順位	最も顕著な 介護度	その割合 (%)
1. 利用場面（食事）	21.7	6	要介護4	48.4
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、エプロンを選択	5.5	33	—	—
3. 2を回答された方のうち、エプロンの利用度が高いと選択	1.2	39	—	—

支援者

項目	全体値 (%)	最も回答率が高 かった職場	最も回答率が高 かった職業	最も回答率が 高かった年数
エプロンを利用している	67.1	—	—	—
エプロンの利用頻度が高い	3.4	—	—	—
エプロンで困った	1.0	—	—	—

本人・家族、支援者ともに開発の重要度が高い用具とはいえません。しかし課題が明確であることと、日常的に使用されることから開発がしやすいと考え、取り上げました。

イ. 「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

本人・家族

項目	具体的内容
デザイン	食事時に食べこぼしがある。現在販売されているエプロンまでは必要ないが、タオルでは事が足りず、エプロン以外の物がなく、仕方なく大きいエプロンを使用しているが、見栄えが悪い。
その他	食事用エプロンは使用しているが、間食時にはエプロンを使用していないので衣服を汚すことがある。

支援者

項目	具体的内容
デザイン	汁物をこぼす事が多いため、エプロンで受け皿になっているデザインの良いものがあればいい。 見た目が悪い。子供のようだ。

双方の困った点は、デザインです。

ウ. エプロンへの要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
35.1%	5.1%	0%	5.6%	0%	0%

要望についてもデザインです。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

エプロンについては、デザインへの期待がすべてです。要望をみても同じ傾向となっています。今回のデザインについては、機能面と見た目の2点からの回答があり、介護しやすい、また汚れないといった機能面を付加したデザインが求められていることと、子供みたい、見た目が悪いと視覚的なデザインでした。問題や頻度（重要度）が高い用具であるとは言えませんが、改善しやすい用具の一つであるといえるでしょう。

⑩スロープ

ア. 「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

	全体値 (%)	全体順位	最も顕著な介護度	その割合 (%)
1. 利用場面（室内）	70.7	2	要介護3	79.2
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、スロープを選択	9.1	23	—	—
3. 2を回答された方のうち、スロープの利用度が高いと選択	9.8	13	要介護4	—

支援者

	全体値 (%)	最も回答率が高かった職場	最も回答率が高かった職業	最も回答率が高かった年数
スロープを利用している	52.6	—	—	—
スロープの利用頻度が高い	4.1	—	—	—
スロープで困った	3.6	—	—	—

本人・家族、支援者にとって開発の優先度が高い用具であるとはいえません。ただしバリアフリー製品として自宅だけでなく、各種公共施設、福祉施設に設置されており、改善点を発見し、改善することは有意義であると考えられます。

イ. 「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

支援者

項目	具体的内容
機能	出入口によっては、細かい段差ができ、上がりにくいことがある。
安全性	2本レールタイプの物は、車輪幅に設置するのにも困ったが、ズレやすい為に何度か危険を感じた。 重くて持ち運びが大変。折りたたむ際に何回も指を挟みそうになった。
設置運搬	固定設置式にすると、家族の出入りに邪魔。 折りたたみの物は重くて、利用する時、設置するのに負担が大きい。 スロープを固定してしまうと、場所が狭い所では邪魔になることがあり、取り外しの場合は重く運びにくい。

重量	自分で持ち運んで設置するタイプは意外と重く、手間がかかる。
----	-------------------------------

主に設置に関することが指摘されました。

ウ. スロープへの要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
0%	0%	13.9%	0%	3.7%	3.2%

要望としては軽量化です。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

安全性と設置運搬という、特に利用者や支援者の直接的な介護面ではなく、その前提となる条件が満たされていないといえる結果となりました。安全性では、重さゆえの危険に対する意見がありました。また設置運搬についても、邪魔ないし、運びにくいという回答が多くなりました。要望についても同様でした。材料の検討などによる軽量化が求められています。

⑪シルバーカー

ア. 「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

項目	全体値 (%)	全体順位	最も顕著な介護度	その割合 (%)
1. 利用場面 (室外)	72.6	1	要介護1	76.1
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、シルバーカーを選択	16.4	6	—	—
3. 2を回答された方のうち、シルバーカーの利用度が高いと選択	12.2	10	要介護1	—

支援者

項目	全体値 (%)	最も回答率が高かった職場	最も回答率が高かった職業	最も回答率が高かった年数
シルバーカーを利用している	75.7	—	—	—
シルバーカーの利用頻度が高い	23.8	ケアハウス	相談員	15年以上
シルバーカーで困った	5.1	—	—	—

最も開発の優先度が高い用具であるとはいえませんが、それでも困ったと回答された本人・家族が16.4%とあり、また使用頻度も高くなっています。また軽い介護度の方の利用度が高い傾向にありました。

ケアハウスからの回答率が高く、開発のための声の把握には不可欠な職場です。

イ. 「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

本人・家族

項目	具体的内容
種類	シルバーカーの高さ調節が低すぎて、腰が痛くなる。
操作	段のあるところは動きにくい。 方向がスムーズに向かない。
持続性	充電が短い。すぐバッテリーがなくなる。

支援者

項目	具体的内容
サイズ	玄関前の段差に引っ掛かる（大きくて運びにくい）。
機能	段々があると動きにくい。 体重がかかり、前輪が浮いた。
種類	軽量の物を購入したが、本人には重く、玄関の上がりを持ち上がらず、使用しないままになっている。
価格	購入金額が高いものが多く、市の助成を使っても金銭面で困ることがある。
快適性	シルバーカーを押すと前屈みになるので、疲れやすい。
操作性	ブレーキ方法が難しいものがあり、使用者が理解しにくいものがあった。 車へ積んだりする時に、折りたたむ事が難しい。 方向転換が難しいものがある。 道路の曲がり角でスムーズに向きが変わらない。

種類、操作で双方より回答がありました。段差への対応への回答が共通しています。

ウ. シルバーカーへの要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
21.6%	2.6%	8.3%	2.8%	0%	12.9%

要望ではデザインへの期待が大きかったです。また利用負担についても求められています。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

移動における主要用具の一つであり、歩行を積極的に支援する用具として期待が大きいと考えられます。

詳細にどのような点を克服するための開発や、改善が必要かといえば、

(1)種類では、本人にあっていないという回答が本人・家族、支援者双方から寄せられました。それが原因で階段が上がらない、腰が痛いという機能面の問題ともなっています。

(2)機能面についても段差への対応が挙げられました。

(3)操作性についても多くの意見がありました。できるだけやさしく、自由に操作できるものへの期待が大きいです。

今後はデザインへの要望が多くなっています。自由に、快適に操作できれば、次は楽しさでしょう。まだ介護度の低い方が利用される傾向にあり、福祉用具という重い感覚でない、開発思想も必要かもしれません。

⑫歩行器・歩行車

ア.「誰に」「どのくらい利用され」、「どの程度困った」と感じているか

本人・家族

	全体値 (%)	全体 順位	最も顕著な 介護度	その割合 (%)
1. 利用場面 (室内)	70.7	2	要介護3	79.2
2. 困った福祉用具があると回答された方のうち、歩行器を選択	9.1	23	—	—
3. 2を回答された方のうち、歩行器の利用度が高いと選択	12.2	10	要介護1	—

支援者

	全体値 (%)	最も回答率が 高かった職場	最も回答率が 高かった職業	最も回答率が 高かった年数
歩行器を利用している	77.0	—	—	—
歩行器の利用頻度が高い	12.9	—	—	—
歩行器で困った	5.1	—	—	—

最も開発の優先度が高い用具であるとはいえません。ただし相応のニーズがあることは間違いなく、本人・家族が回答した困った用具において全57品目のうち23位となっています。

イ.「どの部分や分類について、改善を望んでいるか」

本人・家族

	具体的内容
サイズ	私の身長に合っていない。
機能	荷物入れがない。
安全性	ぶらさげると足等に当たる。

支援者

	具体的内容
安全性	玄関マット上で滑りが悪く、引っ掛かって歩行器ごと転倒した。 ブレーキをかける時、利用者は力が弱く、かけづらい時があった。
操作性	高さ調整がワンタッチでできるとよい。

種類	デモ機を借りて試してみるが、手で持つ部分が太すぎて持ちにくかったり、全体の高さが一定しか調節できず、合うものがない。 歩行器が、その人に合うものが見当たらず、軽すぎたり重すぎたり、滑りがスムーズすぎたり。 本人の機能に合わないものをもっておられる方が多い。 本人のニーズに合ったサイズや形が見つげにくい。
重量	重い。(2)
保守	車輪が摩耗しやすい。
機能	居室内で使用すると、廊下の壁に傷がつく。

双方の共通的なものは安全性と機能です。

ウ. 歩行器への要望 (%)

デザイン	サイズ	重さ	種類	大きさ	利用負担
5.4%	7.7%	13.9%	11.1%	14.8%	0%

要望については広く回答がなされています。特に大きさ、重さの改善への期待が大きいです。

エ. 開発の方向性 ～本人・家族、そして支援者の回答から～

安全性では本人・家族、支援者双方からの回答があり、転倒やケガの可能性を指摘されました。

滑りについて、使用の状況により適切な滑り具合が違ふ可能性があります。

全体的に種類に関する回答が多く、高さ、重さ、機能などの、用具と本人状況とのギャップがあることが分かりました。

移動補助具としてシルバーカーと比較すると、要望では大きな差異が見られました。シルバーカーではデザイン、利用負担の軽減が多かったのですが、歩行器では、重さ、種類、大きさでした。

主にリハビリ等で利用されることを考えると、将来的にもシルバーカーよりも実用性が重視されていると思われます。

5. 本人・家族の要望事項（問14のまとめ）

問14で今後どのような用具の開発を希望するか聞いたが、その内容をまとめると以下ようになります。なお、コメントはアンケート分析者の意見です。

大別	アンケート回答者意見	アンケート分析者コメント
基本的な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・とても安く買える（商品）リストなど（の整備） ・安価で利用できる福祉用具を（開発すること） ・安価で利用、または購入できること ・格安で、使用しやすいもの ・利用者、個々の状態に合った福祉用具 ・自分の身長や腰の曲がりように合ったサイズのものが良い ・リフォームがもっと簡単に行えるもの ・使い勝手と手軽さ（着やすさ、見た目）などを兼ね備えたもの ・病気が進行し、状態が悪化してもその時々に応じて対応できる福祉用具 	<p>現在では、福祉器具が提供する機能や便益に対して、価格が高いと感じているようです。今後種類や使いやすさの向上により価値感を持たせること、ないし過剰品質の解消によるコストダウンも考えられます。</p>
衣料品装具	<ul style="list-style-type: none"> ・安価で、デザイン的にもおしゃれな介護用の衣服があれば良いと思う ・着やすくて、洒落た服があれば良いと思う ・私は小柄なので、市販のものでは合うものがない ・本人に合ったものが一番いいと思う ・いろんな物を作りあげるより、今の私達に合わせたものを手に入れたい ・冬期は軽くて暖かいウール衣料を選びたいが、洗濯機、乾燥機を使用すると縮んでしまうので、自由に衣類の選択ができるように洗っても縮まない繊維の開発 ・高齢者向けのすっきりしたデザインの開発 ・麻痺のある人が自由に着脱しやすい衣服。今現在下着などマジックテープのものが多く、洗濯が大変。マジックテープの所に糸クズがくっついて取りにくい。マジックテープがすぐ効かなくなる。肌を傷つけることがあるなど、問題点が多い ・脱いだり履いたりしないで、横を工夫して付けることが出来るリハビリ様パンツ ・片麻痺の人でも装着しやすい使い捨てパンツ（左右ウエストに引っ張り上げるひもが付いているもの） ・紙パンツにパットを当てるのが難しい人の対応策（パットがすでに付いていると2回に1回） 	<p>ファッション性、着心地、着脱の容易さ、種類やサイズの豊富さなど、多くの期待が寄せられています。福祉用具のカタログにおいて、衣料や靴については専門で取り扱えるくらいのバリエーションが望まれていると考えられます。</p> <p>また健常者が日常に使用するものと福祉用具の間的なもの（ユニバーサルデザイン商品、共用品）の開発が望まれます。</p> <p>UD化の市場拡大によるコストダウ</p>

大別	アンケート回答者意見	アンケート分析者コメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・有名ブランドが開発した介護用衣服（お洒落で、価格の手ごろなもの） ・麻痺があっても、装具を簡単に装脱着できるようなものを開発して欲しい 	<p>ンや、販路拡大が期待できます。</p>
ベッド	<ul style="list-style-type: none"> ・家具ベッドに取り付け可能なベッド柵 ・移動式ベッド柵 ・軽くて安定した介護用ベッド 	<p>本人の状態に適した付属品の開発が望まれています。</p>
移動装置	<ul style="list-style-type: none"> ・段差に困らない車椅子 ・階段の上り下りが可能な車椅子 ・階段を車椅子で上り下りできるようにして欲しい ・多少の段差ならば自力で乗り越えられる車椅子があれば良いと思う ・坂道を片手で上り下りできるような車椅子 ・道路上の変化に応じ、機能が随時変えられる車椅子（道路の傾斜、砂利道、凸凹道の走行など）。車椅子の上下傾き、車輪幅の変更など。 ・車椅子用に車を改造するのではなくて、車に合わせて乗り降りを簡単にできる車椅子 ・もう少しコンパクトな車椅子（自動車に積みやすいもの） ・超小型車椅子 ・もっと安全に乗れるシニアカーが欲しい ・坂道（特に下り坂）を安全に歩ける歩行器 ・とてもコンパクトで軽い歩行器（持ち運びが便利） ・赤ちゃんの歩行器のように椅子のついたもの ・家の周り、段差があっても安全に歩行できるような器具 ・移動全般において不安解消ができるもの（階段） ・立ち上がり介助バー ・玄関の踏み台 ・トイレへの移動がスムーズに行える器具の開発 ・畳の上での生活（特に冬場はこたつにあたって過ごすことも多い）なので、床面からの立ち上がりが楽に安全にできるようなものが欲しい。 	<p>移動の制約条件となるものは、建築構造、身体状況、行動範囲、公共インフラなどさまざまです。例えば田舎と都会であっても段差の有無や、スロープの設置状況は異なります。制約条件ごとに適した器具の開発ができれば利便性は大幅に向上されるのではないかと考えられます。</p> <p>移動装置の進歩は、利用者の生活の幅を広げ、社会参加を促すための大きな役割を担っています。インフラ面の整備を含め、重要な位置づけであるといえるでしょう。</p>
入浴関連	<ul style="list-style-type: none"> ・浴室の床が滑らないようにできるマット ・全ての人に入浴が可能になるような浴槽（ほとんど介護を必要としない） ・浴槽に入らずに入浴効果のあるもの。特殊なシャワーはあ 	<p>入浴介助の大変さを解消するための大きなイノベーションが期待され</p>

大別	アンケート回答者意見	アンケート分析者コメント
	<p>るが、役に立たない。最も必要な季節（冬）に使えない。</p>	<p>ています。</p>
<p>介助用品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・足だけでなく、手も不自由な方がスムーズに靴下をはける器具 ・手が上がらない方が簡単に髪をとかせる器具 ・尿意、便意などを知らせるブザー 	<p>本人ができるだけ自立できるためのアイデアや工夫が望まれています。</p>
<p>運動支援 リハビリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・麻痺した手を固定するもの ・介護服というか、服を着用することで、脳からの指令が服を伝わって伝達され、足や手が動くようになる。アシモ(?)も2本足で歩いたり走ったり踊ったりできるようになっている。片麻痺、パーキンソン等で体の動きが悪い場合、その動きを助けてくれるものが欲しい ・麻痺部分を他動的に動かしてもらような機械が欲しい ・麻痺部を他動的に動かしてROM訓練などができるリハビリ器具 	<p>不足した身体機能を補助するための器具の開発が期待されています。高度な技術領域分野と連携することや参入が重要だと考えられます。</p>
<p>コミュニケーション装置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話す内容が文字になって出てくる電話機 ・声の出ない人、字が書けない人などの意志が伝えられるような方法を考えた機器ができれば助かる ・ペースメーカーを植え込みしていても使用できる携帯電話 	<p>自立支援における大きな領域であるといえます。インターネットにおけるUD化の取組みに代表されるように、コミュニケーション分野の拡大や充実が期待されています。</p>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保温、冷温マット ・癒し系ロボット ・留守の時の対策（鍵） ・転倒しても衝撃を吸い込む床、壁 ・携帯電話に影響されないペースメーカー ・コンセントプラグの角を抑えるとコードを引っ張らなくてもポンッと抜けるようなプラグ ・インスタントコーヒー等のふたの上部分に取っ手があれば、ふたが開けやすい 	<p>要介護状態になったとしても、できるだけ残存機能を活用し、不足分を補い、生きがいのある生活を営めることを支援することが福祉器具に求められる要望であるといえるでしょう。そのための様々な期待が込められていると考えられます。</p>

6. 自由意見

(1) 支援者

①問8について ②問9について ③問10について

69 男	特別養護老人ホーム	介護職員(施設)	3~10年	◇高齢者にとっては、椅子の脚の長さが高い。	8 椅子	本人
158 男	デイサービス	介護職員(施設)	1年未満	◇高すぎる。	8 椅子	本人
69 男	特別養護老人ホーム	介護職員(施設)	3~10年	◇機械で浮き上がることにより恐怖心が大きい。	8 移動用リフト	本人
148 女	グループホーム	看護士	3~10年	◇どのベッドにもは対応できない。	8 移動用リフト	支援者
186 女	老人保健施設	作業療法士	1~3年	◇リフト使用前の準備に介助量が多い。シート等の設置が一人では大変。	8 移動用リフト	支援者
103 女	居宅介護事業所	ケアマネジャー	1~3年	◇音がする。温かすぎて汗が出る。	8 エアマット・床ずれ防止マット	本人
67 女	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	1~3年	◇現在のものは素材が良いが、昔のものは素材が硬く、冬期取扱いが困難。	8 エアマット・床ずれ防止マット	支援者
43 男	居宅介護事業所	ケアマネジャー	1~3年	◇夏場暑く、あせもができる。通気性をよくして欲しい。	8 エアマット・床ずれ防止マット	どちらにも
60 女	特別養護老人ホーム	介護職員(在宅)	1~3年	◇ラバーシート等がズレやすく、直すたびに入居者の方で負担がかかってしまう。	8 エアマット・床ずれ防止マット	どちらにも
153 女	訪問介護事業所	介護職員(在宅)	10~15年	◇冬場に寒いと訴える人がいた。(エアーを感じて)	8 エアマット・床ずれ防止マット	本人
44 女	特別養護老人ホーム	介護職員(施設)	10~15年	◇汚れた時洗うのが大変。	8 エアマット・床ずれ防止マット	支援者
170 女	グループホーム	介護職員(施設)	1年未満	◇エアマットが大きく厚いため、シーツの大きさが合わず、敷きにくい。体位変換する度にずれる。	8 エアマット・床ずれ防止マット	支援者
18 女	グループホーム	介護職員(在宅)	1~3年	◇汗物をこぼす事が多いため、エプロンで受け皿になっているデザインの良いものがあほしい。	8 エプロン	本人
15 女	グループホーム	介護職員(施設)	10~15年	◇見た目が悪い。子供のような。	8 エプロン	どちらにも
181 女	老人保健施設	介護職員(施設)	3~10年	◇おどろかカバーが縫い付くのでおどろかと思う。	8 おむつカバー	本人
27 女	特別養護老人ホーム	ケアマネジャー	3~10年	◇もれる。テープを剥がすのを忘れる。マジックテープだと値段も高くなる。	8 紙おむつ	本人
118 女	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	3~10年	◇うまく当てたつもりでも、本人が動くと、どうしても横漏れしてしまう。	8 紙おむつ	どちらにも
98 女	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	1~3年	◇横に向けて寝るため、横漏れがある。	8 紙おむつ	どちらにも
38 女	訪問介護事業所	介護職員(在宅)	1~3年	◇サイズと排尿量のバランスで、その方にピッタリするものがない。	8 紙おむつ	どちらにも
150 女	訪問介護事業所	介護職員(在宅)	1~3年	◇夜用を使っても、ずれてもれる。	8 紙おむつ	どちらにも
21 女	その他	看護士	10~15年	◇紙パンツ。片側がマジックテープであれば、はかせやすい。	8 紙おむつ	支援者
73 女	養護老人ホーム	看護士	1~3年	◇認知症者の排泄時、本人がもてあそんだりして困った。	8 紙おむつ	支援者
97 男	在宅介護支援センター	相談員	3~10年	◇どうしても漏れがあるので困る。	8 紙おむつ	どちらにも
67 女	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	1~3年	◇ビニール製のものを使ったことがある利用者が頭をもたれさすと、そこが乾いで中の湯がこぼれそうになった。安心して入浴できない。	8 簡易浴槽	どちらにも
154 女	訪問介護事業所	介護職員(在宅)	15年以上	◇在宅の為、それぞれの部屋に給水、排水等の問題、介助の問題、特に体重が重い方に対する移動等。	8 簡易浴槽	どちらにも
198 女	ケアハウス	ケアマネジャー	3~10年	◇緊急呼出器具→手が届かない場合がある。	9 緊急呼出器具	
32 女	訪問介護事業所	介護職員(在宅)	3~10年	◇協力者の迷惑をかけるからと大変な状況にあっても遠慮されていることが多い。	8 緊急呼出器具	本人
1 女	訪問介護事業所	介護職員(在宅)	1~3年	◇目の見えない方が間違えて押してしまう。	8 緊急呼出器具	どちらにも
62 男	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	3~10年	◇サイズ、デザインが少ない。	8 靴	本人
59 女	居宅介護事業所	ケアマネジャー	3~10年	◇靴のサイズが通常のサイズと多少異なり、合わなかつた。	8 靴	どちらにも
163 女	在宅介護支援センター	ケアマネジャー	1~3年	◇本人のニーズに合ったサイズや形が見つかりにくい。	8 靴	本人
164 女	在宅介護支援センター	ケアマネジャー	10~15年	◇足が大きい人、外反母趾の人、甲高の人、はきやすくお洒落なデザインが欲しい。	8 靴	どちらにも
173 女	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	1年未満	◇リハビリシューズ購入の際、メーカーによりサイズに差があり、見本品があはり助かる。	9 靴	
49 女	グループホーム	その他	1~3年	◇靴のデザイン、色があまり選べない。	8 靴	本人
95 女	グループホーム	介護職員(施設)	3~10年	◇自分で履きやすく、脱履しにくい靴で、他に何かいいものがあるほしいと思った。	8 靴	どちらにも
160 女	有料老人ホーム	相談員	1年未満	◇靴のマジックテープがソックスにつき、履きにくかったり、マジックテープに糸くずが付き、くっつきが悪くなったりすることがある。	8 靴	どちらにも
61 男	在宅介護支援センター		3~10年	◇たくさん種類やサイズを置いている業者が少なく、なかなかその人にあったものを見つけることができなかった。	8 靴	どちらにも
67 女	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	1~3年	◇足置の間が広く、下肢機能の低下した利用者の足が移動中に落ちる。	8 車椅子	本人
63 女	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	3~10年	◇身長はあまり高くないが、体重の重い人はその人の体型に合った車椅子(高さ、座幅等)がない。	8 車椅子	本人
43 男	居宅介護事業所	ケアマネジャー	1~3年	◇姿勢を保持できない方がどうしても左右に体が傾いてしまい、良い体制を確保できない。	8 車椅子	どちらにも
62 男	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	3~10年	◇本人の体の状態に合うものがない。	8 車椅子	どちらにも
164 女	在宅介護支援センター	ケアマネジャー	10~15年	◇片麻痺の人が座りが保たれるもの。軽くて持ち運びが楽なものが欲しい。	8 車椅子	どちらにも
135 女	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	3~10年	◇左麻痺のため、ストッパーが動かしにくくて困る。重い。マットレスが落ちることがある。	8 車椅子	どちらにも
128 女	グループホーム	その他	1~3年	◇車で重みなど重すぎる。もう少し軽くて安全なものがよい。	8 車椅子	支援者
128 女	グループホーム	その他	1~3年	◇車椅子は車内で簡単に持ち運びできるものがよい。	9 車椅子	
153 女	訪問介護事業所	介護職員(在宅)	10~15年	◇体、障害に合うものがない。	8 車椅子	
109 女	デイサービス	介護職員(在宅)	3~10年	◇長時間座っていると疲れる。	8 車椅子	本人
119 女	訪問介護事業所	介護職員(在宅)	3~10年	◇説明書を読んでも操作できず、使い勝手が悪かった。	8 車椅子	どちらにも
18 女	グループホーム	介護職員(在宅)	1~3年	◇ブレーキの使用頻度が多いため、効きが悪い。	8 車椅子	どちらにも
69 男	特別養護老人ホーム	介護職員(施設)	3~10年	◇本人に合った車椅子でない(大きいなど)	8 車椅子	本人
166 女	デイサービス	介護職員(施設)	10~15年	◇本人の体型に合っていないので操作がしにくい。座位保持が困る。	8 車椅子	どちらにも
68 男	特別養護老人ホーム	介護職員(施設)	3~10年	◇タイヤを持って動かすので、衛生状況が悪い。ストッパーを掛けられない人がいて困る。	8 車椅子	本人

(2) 本人・家族

①問10について ②問13について ③問14について

124 70代 女	要介護4	◇ 吊り具が問題。使いやすいものの開発を希望。	10 移動用リフト
27 80代 男	要介護5	◇ 利用者をつりあげた後、リフト本体が動きにくく力がある。	10 移動用リフト
104 70代 男	要介護4	◇ 操作が難しい。	10 エアマット・床ずれ防止マット
8 80代 女	要介護5	◇ 夏、暑い。	10 エアマット・床ずれ防止マット
106 80代 女	要介護5	◇ 食事前エプロンは使用しているが、間食時にはエプロンを使用していないので衣服を汚すことがある。	10 エプロン
156 80代 女	要介護2	◇ 食事時に食べこぼしがある。現在販売されているエプロンまでは必要ないが、タオルでは事が足りず、エプロン以外の物がなく、仕方なく大きいエプロンを使用しているが、見栄えが悪	10 エプロン
146 80代 女	要介護4	◇ 場所を取る。設置コストが高い。	10 階段昇降機
146 80代 女	要介護4	◇ サイズが画一的（Sにすれば小さい、Mだと大きいなど）。	10 紙おむつ
139 60代 男	要介護4	◇ 外出用の靴がどこにでも置いていない。高価である。	10 靴
93 70代 女	要介護2	◇ 足が腫れると靴の中に足がおさまらない。	10 靴
94 70代 男	要介護1	◇ 自分に合った靴がなかなか見つからない。高い。	10 靴
11 80代 男	要介護2	◇ 横に広がってしまい、歩いている時に脱げる。	10 靴
6 60代 女	要介護2	◇ 靴下が滑りやすく、二人同時に転倒しそうになる。	10 くつ下
39 60代 女	要介護2	◇ 靴下のゴムの部分に2ヶ所ほどひも輪があれば、履きやすいと思う。	10 くつ下
138 70代 男	要介護4	◇ 足がむくみがちで、靴下のゴムが食い込む。	10 くつ下
6 60代 女	要介護2	◇ 足を乗せる所がゆるんで困る。	10 車椅子
44 70代 女	要介護3	◇ 車椅子の操作が難しい。	10 車椅子
118 70代 男	要介護4	◇ グリップが動き、力が入らない。	10 車椅子
92 70代 男	要介護5	◇ 腰が痛く、長時間座っていると身体がずってきて疲れる。	10 車椅子
82 70代 男	要介護4	◇ 右麻痺でひじがすぐに落ちるので、ひじ置き役割をしなかつ	10 車椅子
87 70代 男	要介護5	◇ リクライニング式車椅子で、背を上げて足をのろした時に、本人の足が床につくものがなかった。	10 車椅子
106 80代 女	要介護5	◇ 毎日使用する車椅子と椅子が、その日の体調により有効に使用しにくい場合がある。	10 車椅子
38 80代 男	要介護3	◇ 車椅子の高さが低い。ベッドからの移動時に困る。	10 車椅子
140 80代	要介護3	◇ 持ち運びが大変だった。	10 車椅子
91 90以 女	要介護2	◇ 車椅子が小型で、小回りには便利であるが、長く座ると滑り落ちそうになる。	10 車椅子
39 60代 女	要介護5	◇ なかなか自分に合うクッションが見つからない。	10 車椅子用クッション
42 70代 女	要介護5	◇ 尿もれ、残食などで汚染することが多い。洗えるクッションにしたが、むれて赤くたかれた。	10 車椅子用クッション
92 70代 男	要介護5	◇ 腰が痛く、長時間座っていると身体がずってきて疲れる。	10 車椅子用クッション
11 80代 男	要介護2	◇ 値が不安定で信用できない。	10 血圧計
7 80代 女	要介護1	◇ ベッドからずれやすい。	10 シーツ
138 70代 男	要介護4	◇ 自分できちんとパッドをつけてパンツをはけない。	10 失禁パンツ
10 50代 女	要介護4	◇ すぐ付いているベルトとかが伸びて使えなくなってしまう。	10 自動車(介護用)
39 60代 女	要介護4	◇ 介助用タクシーに電動車椅子が乗れない(床面が高くなっている為)。	10 自動車(介護用)
140 80代	要介護3	◇ 値段が高い。	10 自動車(介護用)
10 50代 女	要介護4	◇ 座る部分が硬くて、お尻がすべって困る。	10 シャワーキャリー
5 70代 男	要介護4	◇ 前を浮かす時の後の踏み込みの位置では、前が上がらない。	10 シャワーキャリー
62 60代 女	要介護2	◇ 充電が短い。すぐバッテリーがなくなる。	10 シルバーカー
49 70代 女	要介護1	◇ シルバーカーの高さ調節が低すぎて、腰が痛くなる。	10 シルバーカー
7 80代 女	要介護1	◇ 段のあるところは動きにくい。	10 シルバーカー
11 80代 男	要介護2	◇ 方向がスムーズに向かない。	10 シルバーカー
154 70代 女	要介護1	◇ 手すりの位置が自分に合わない。	10 寝台手すり
6 60代 女	要介護2	◇ 容器が洗にくい。汚れが取れない。	10 吸い飲み器
46 80代 女	要介護5	◇ 本人に合ったものがない。お試しがない。	10 スプーン
43 70代 男	要介護4	◇ 本人が福祉用具を使用しない。	10 その他(昇降座いす)
93 70代 女	要介護2	◇ 一人で装着しにくい。日によって痛みがある。	10 その他(装具)
20 80代 女	要介護1	◇ 音量の調整が小さくて難しい。	10 その他(補聴器)
57 80代 女	要介護4	◇ 移動の時、横に向けて固定しにくい。	10 体位変換保持パット
18 60代 女	要介護4	◇ ゴムの部分がすぐちびる。もっと強いものを使ってももらえない	10 杖
95 70代 男	要介護4	◇ 杖の先がついた時にコツコツ音がする。	10 杖
138 70代 男	要介護4	◇ 杖だけで歩けない。	10 杖
73 90以 女	要介護1	◇ 重すぎたり、軽かったり、手頃なものがなかなか見つからない	10 杖
44 70代 女	要介護3	◇ 他の方もおられるので、高さが合わない。	10 杖
10 50代 女	要介護3	◇ なかなか足でコントロールできない車椅子が多いので、改造に時間がかかって困る。	10 手すり
39 60代 女	要介護2	◇ 急に動かなくなった時、せめて1、2日で対応して欲しい。	10 電動車椅子
10 50代 女	要介護2	◇ マットレスが動いて、すぐずれたり、マットレスカバーも替えがないので困る。別に買うとすごく高いので困る。	10 電動車椅子
154 70代 女	要介護1	◇ ベッドの柵の位置が自分に合わない。	10 電動ベッド
104 70代 男	要介護4	◇ 身体がずれていく。	10 電動ベッド
57 80代 女	要介護4	◇ 移動の時、横に向けて固定しにくい。	10 電動ベッド
8 80代 女	要介護5	◇ 上半身に力があるので、ベッド手すりを乗り越えることがある。高い手すりが欲しい。	10 電動ベッド
98 80代 女	要介護1	◇ ベッドの横の部分に、降りる時に足が当たる。	10 電動ベッド
140 80代	要介護3	◇ 値段が高い。	10 電動ベッド
45 70代 女	要介護4	◇ 持ちにくい位置にある。	10 電動ベッド
151 70代 男	要介護1	◇ 手入れに手間がかかる。	10 トイレ手すり
			10 尿器・便座

参 考 資 料

1. アンケートのお願い
2. アンケート用紙（支援者用）
3. アンケート用紙（本人・家族用）

平成17年12月

ご担当者各位

(財)岡山県産業振興財団

「福祉用具に関するニーズ調査」へのご協力をお願い

1 調査の趣旨

岡山県では、医療・福祉・健康関連産業について、21世紀に成長が見込まれる重点分野の1つと位置付け、産学官の連携による新たな産業の創出・集積などを通して、本県産業・経済の活性化を推進しているところです。

こうした中、(財)岡山県産業振興財団では、岡山県との密接な連携により、利用者に真に必要なとされる福祉用具の開発支援に取り組んでいる「ハートフルビジネスおかやま」及び産業界を中心として福祉機器の開発を推進する「岡山県福祉機器研究会」の両組織の活動を支援し、福祉・健康関連産業の振興を図っているところです。

この度、更に利用者ニーズに合った福祉用具開発を進めるため、中国経済産業局の補助を受け、実際に福祉用具をご利用の皆様のご意見をお伺いさせていただくことといたしました。

つきましては、ご多用中誠に恐縮に存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、お差し支えない範囲でお答えいただきますよう、ご協力よろしくお願いいたします。

2 調査の内容

福祉用具のニーズについてのご意見やご要望をお尋ねするアンケート調査です。

平成17年12月1日現在の内容についてご記入ください。

なお、お答えいただきました内容につきまして、福祉用具開発の参考とする以外の目的には利用いたしません。

3 調査用紙の記入

調査票は、【本人・家族用】と【支援者用】の2種類を2部ずつ送付しております。施設等におかれましては、①入所(通所)者及びその家族、②職員の方につきまして、ご協力いただける方を①②それぞれから2名ずつお選びいただき、調査用紙の記入をお願いします。

4 ご回答期限 平成17年12月28日(水)

〔この調査の実施方法について〕

この調査は、(財)岡山県産業振興財団が行うものですが、その実施は、株式会社アルマ経営研究所に委託しております。お問い合わせ及びご返信は、株式会社アルマ経営研究所までお願いいたします。

〔調査機関・お問い合わせ先〕
株式会社アルマ経営研究所
〒700-0803
岡山市北方1丁目1-9
TEL.086(225)3635 担当者 加藤

調査票（支援者用）

<ご記入いただく方の概要について>

この度はアンケートにご協力をいただきありがとうございます。まずこのアンケートにご回答いただける方の性別、職場の種類、職種をお尋ねします。

問1 性別を教えてください。

（該当する番号に○をつけてください。）

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 お勤めの職場の種類を教えてください。

（該当する番号に○をつけてください。）

- | | | |
|-------------------|--------------|---------------|
| 1. 特別養護老人ホーム | 2. デイサービス | 3. 居宅介護支援事業所 |
| 4. グループホーム | 5. 居宅介護事業所 | 6. 在宅介護支援センター |
| 7. 社会福祉協議会（介護職以外） | 8. 養護老人ホーム | 9. ケアハウス |
| 10. 訪問介護事業所 | 11. 老人短期入所施設 | 12. 老人保健施設 |
| 13. 訪問看護事業所 | 14. 有料老人ホーム | |
| 15. その他（ | | ） |

問3 お勤めの職場での職種を教えてください。

（該当する番号に○をつけてください。）

複数の職種を担当されている方は主たるものを選択してください。）

- | | | |
|---------------|-------------|----------------------|
| 1. 看護師 | 2. 保健師 | 3. 理学療法士 |
| 4. 作業療法士 | 5. 言語聴覚士 | 6. 介護支援専門員（ケアマネージャー） |
| 7. 介護職員（在宅） | 8. 介護職員（施設） | |
| 9. 相談員（社会福祉士） | 10. その他（ | ） |

問4 現在のお勤め先での勤続年数を教えてください。

（該当する番号に○をつけてください。）

- | | | |
|--------------|------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年～3年未満 | 3. 3年～10年未満 |
| 4. 10年～15年未満 | 5. 15年以上 | |

＜福祉用具を利用される利用者の概要について＞

実際に皆さんが支援する利用者の方々が利用している福祉用具の種類について、重要度、そして課題・問題点についてお尋ねします。

問5 担当している（担当していた）利用者の方々が利用されている（過去に利用されていたのも含む：以下の設問も同じ）福祉用具を教えてください。

（該当するものすべてに○をしてください。）

●健康	1. スプーン 5. 爪きり 9. 移動用リフト	2. 吸い飲み器 6. エプロン	3. 口腔ケア用品 7. くつ下	4. 血圧計 8. 椅子
●入浴	10. マット 14. 入浴台 17. リフト 20. 手袋	11. 入浴用椅子 15. 移乗台 18. 簡易浴槽 21. 清拭タオル	12. 入浴踏台 16. シャワーキャリー 19. 入浴用品（シャンプー・ローション） 22. ドライシャンプー	13. 風呂用手すり
●特殊寝台	23. マットレス 26. シーツ 29. 手すり	24. 電動ベッド 27. クッション	25. エアマット・床ずれ防止マット 28. 体位変換保持パット	
●衣料	30. 肌着	31. パジャマ		
●トイレ	32. ポータブルトイレ 36. 尿器・便座 40. 尿とりパット	33. スクリーン 37. 手袋 41. 紙おむつ	34. 手すり 38. 失禁パンツ	35. トイレ消臭 39. おむつカバー
●歩行補助	42. 靴 46. 歩行器・歩行車 50. 車椅子用クッション	43. 杖 47. シルバーカー 51. 自動車（介護用）	44. 四点杖 48. 車椅子	45. 松葉杖 49. 電動車椅子
●住宅関連	52. 緊急呼出器具 56. スロープ	53. 徘徊検知器具 57. 階段昇降機	54. 手すり	55. 踏台
●その他（上記にないもの）	58. ()			

＜福祉用具の重要度・使用頻度について＞

問5でお答えいただいた福祉用具のうち、利用者が生活していく上や、支援者が支援していく上で、重要度または使用頻度の高いものの順番をお尋ねします。

問6 問5で利用される（されていた）福祉用具のうち、重要度の高いもの、または使用頻度の高いものを5つまで挙げてください。

（上表で、該当する番号をご記入ください。）

No. 1		No. 2		No. 3		No. 4		No. 5	
----------	--	----------	--	----------	--	----------	--	----------	--

<福祉用具の課題・問題点について>

問5でお答えいただいた福祉用具のうち、実際にどのような困った点があると感じたかをお尋ねします。

問7 問5でお答えになられた福祉用具は、本人・支援者にとって困った点がありましたか。

1. ある	2. ない
-------	-------

問8 問7で「1. ある」とお答えいただいた方に質問します。

問5の利用される（されていた）福祉用具の中で、困った点があると感じた福祉用具を5つまで教えてください。

問5の番号	誰にとって	困った点
(記入例) 8	本人 支援者 どちらにも	(記入例) 重すぎて持ち運びが大変だった。 構造が複雑なため掃除がしにくかった。
	本人 支援者 どちらにも	

問9 問5の利用者が利用される（されていた）福祉用具の中で、使用上支障はないものの、もっとうしたら、こうだったら良かったと思う器具があれば教えてください。

（問5の表から該当する福祉用具を選んでください。）

こうしたら、こうだったらと思う点	問5の該当する福祉用具番号 (番号を、で区切って記入)
もっとデザインが良かったら	
もっとサイズが多かったら	
もっと重かったら、軽かったら	
もっと利用者の状態ごとに種類を選べたら	
もっとサイズが大きかったら、小さかったら	
もっと利用者の負担が小さかったら	
(その他ご意見があればご記入ください)	

<現在開発されている福祉用具の改善について>

これからの設問は、福祉用具を利用される立場から、より良い福祉用具をつくるためのアドバイスをいただきたいと思えます。

問10 支援者、利用者により満足いただける福祉用具を開発・普及していくために要望や、ご意見があれば教えてください。

ご協力ありがとうございました

調査票（本人・家族用）

<福祉用具を利用されている方の概要について>

問1 福祉用具を利用されている方の年齢を教えてください。

（該当する番号に○をつけてください。）

- | | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|---------|
| 1. 50歳未満 | 2. 50歳代 | 3. 60歳代 | 4. 70歳代 | 5. 80歳代 |
| 6. 90歳代以上 | | | | |

問2 福祉用具を利用されている方の性別を教えてください。

（該当する番号に○をつけてください。）

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問3 介護保険の認定を受けていますか。

（該当する番号に○をつけてください。）

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 受けている | 2. 受けていない |
|----------|-----------|

問4 問3で「1. 受けている」と回答された方は現在の介護度を教えてください。

（該当する番号に○をつけてください。）

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1. 要支援 | 2. 要介護1 | 3. 要介護2 |
| 4. 要介護3 | 5. 要介護4 | 6. 要介護5 |

問5 現在、どのような福祉サービスを利用（活用）されていますか。

（該当する番号すべてに○をしてください。）

- | | | |
|---------------|-----------|------------|
| 1. 訪問介護 | 2. デイサービス | 3. ショートステイ |
| 4. 送迎サービス | 5. 給食サービス | 6. 権利擁護事業 |
| 7. サークル活動（趣味） | 8. 施設入所 | 9. 老人クラブ活動 |
| 10. リハビリテーション | 11. その他（ | ） |

問6 日常の生活動作の中で福祉用具を利用される場面はどれですか。

（該当する番号すべてに○をつけてください。）

- | | | | |
|---------|-----------|-----------|----------|
| 1. 食事 | 2. 移動（室内） | 3. 移動（室外） | 4. 入浴 |
| 5. トイレ | 6. 聴力 | 7. 視力 | 8. 起き上がり |
| 9. その他（ | | | |

<現在使用されている福祉用具の問題点について>

問7 現在使用されている福祉用具で、問題点や困ったことはありますか。
(該当する番号に○をつけてください。)

1. ある	2. ない
-------	-------

問8 問7で「1. ある」と回答された方で、実際に問題点や困ったことのある福祉用具はどれですか。

(下表で、該当するものをすべてに○をつけてください。)

●健康	1. スプーン	2. 吸い飲み器	3. 口腔ケア用品	4. 血圧計
	5. 爪きり	6. エプロン	7. くつ下	8. 椅子
	9. 移動用リフト			
●入浴	10. マット	11. 入浴用椅子	12. 入浴踏台	13. 風呂用手すり
	14. 入浴台	15. 移乗台	16. シャワーキャリー	
	17. リフト	18. 簡易浴槽	19. 入浴用品 (シャンプー・ローション)	
	20. 手袋	21. 清拭タオル	22. ドライシャンプー	
●特殊寝台	23. マットレス	24. 電動ベッド	25. エアマット・床ずれ防止マット	
	26. シーツ	27. クッション	28. 体位変換保持パット	
	29. 手すり			
●衣料	30. 肌着	31. パジャマ		
●トイレ	32. ポータブルトイレ	33. スクリーン	34. 手すり	35. トイレ消臭
	36. 尿器・便座	37. 手袋	38. 失禁パンツ	39. おむつカバー
	40. 尿とりパット	41. 紙おむつ		
●歩行補助	42. 靴	43. 杖	44. 四点杖	45. 松葉杖
	46. 歩行器・歩行車	47. シルバーカー	48. 車椅子	49. 電動車椅子
	50. 車椅子用クッション	51. 自動車 (介護用)		
●住宅関連	52. 緊急呼出器具	53. 徘徊検知器具	54. 手すり	55. 踏台
	56. スロープ	57. 階段昇降機		
●その他 (上記にないもの)	58. ()			

問9 問8で回答いただいた福祉用具のなかで、ご本人の日常生活上、重要な
いし使用頻度の高いものを5つまで教えてください。

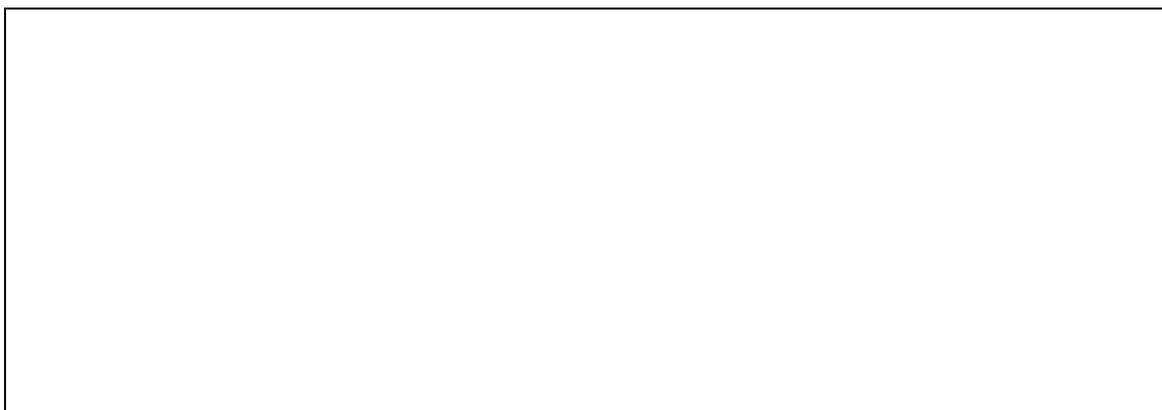
(上表で、該当する番号をご記入ください。)

No. 1		No. 2		No. 3		No. 4		No. 5	
----------	--	----------	--	----------	--	----------	--	----------	--

<より良い福祉用具の開発について>

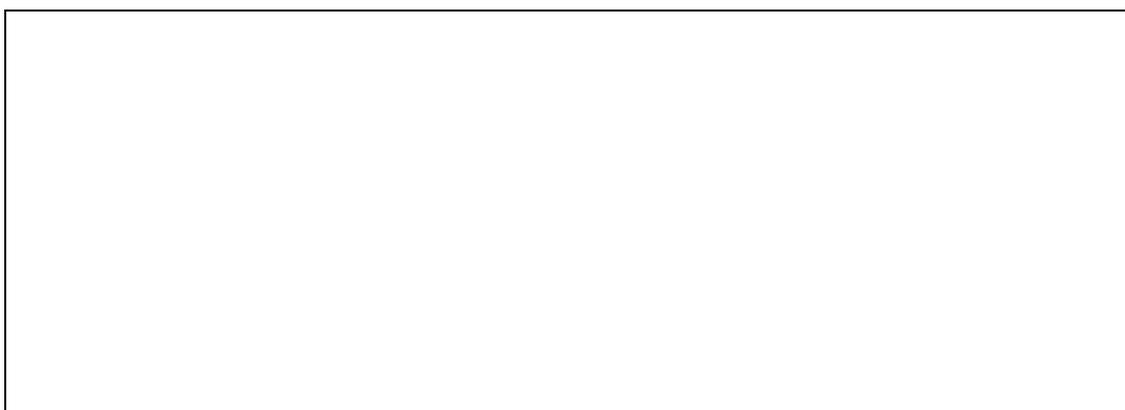
問13 より使いやすく、利用者が満足できる福祉用具の開発・普及のための要望があれば教えてください。

例えば・・・様々な状態の人を考慮した設計をして欲しいなど。



問14 今後どのような福祉用具が開発されることを望みますか。
自由な発想で（実現可能性がある、ないに関わらず）教えてください。

例えば・・・階段の昇り降りが楽に出来る車椅子、有名ブランドが開発した介護用衣服など。



ご協力ありがとうございました。